泉大津市文化財調査報告25

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報13

1995・3

泉大津市教育委員会

泉大津市文化財調査報告25

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報13

1995・3

泉大津市教育委員会

例　　言

1．本調査概報は、泉大津市教育委員会が、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地内において、開発行為に先立って実施した発掘調査報告である。

2．本調査は、国庫補助事業及び、大阪府補助事業(総額1,000,000円、国庫補助率50%、府補助率25%、市負担率25%）として、泉大津市が計画・実施したものである。

3．本調査は下記の構成で実施した。

調査主体者	泉大津市教育委員会教育長	塙　四郎
事　務　局	泉大津市教育委員会社会教育部社会教育課	
調査担当者	泉大津市教育委員会社会教育課	坂口　昌男
外業調査員		辻川　陽一
		松村まゆみ
内業調査員		松村まゆみ

4．本事業は、平成6年度事業として、平成6年4月1日に着手して、平成7年3月31日に完了した。

5．本書の図面は松村が作成し、執筆・編集は坂口が行った。

目　　次

第１章　埋蔵文化財調査の状況 …… 1
第２章　発 掘 調 査 成 果 …… 7
池上曽根遺跡…… 7
豊 中 遺 跡……10
虫 取 遺 跡……17
板 原 遺 跡……22
池 浦 遺 跡……25
七 ノ 坪 遺 跡……32
報告書抄録 ……巻末

挿　　図

第１図　遺跡分布図…… 6
第２図　池上曽根遺跡　調査地点図…… 7
第３図　池上曽根遺跡　調査地　掘削位置図…… 8
第４図　池上曽根遺跡　調査地　西壁断面図…… 8
第５図　豊中遺跡　調査地点図……10
第６図　豊中遺跡　第１地点　掘削位置図……11
第７図　豊中遺跡　第１地点　北壁断面図……11
第８図　豊中遺跡　第２地点　掘削位置図……12
第９図　豊中遺跡　第２地点　東壁断面図……12
第10図　豊中遺跡　第２地点　出 土 遺 物……13
第11図　豊中遺跡　第２地点　遺構平面図……13
第12図　豊中遺跡　第３地点　掘削位置図……14
第13図　豊中遺跡　第３地点　南壁断面図……15
第14図　豊中遺跡　第４地点　掘削位置図……15
第15図　豊中遺跡　第４地点　東壁断面図……16
第16図　虫取遺跡　調査地点図……17
第17図　虫取遺跡　第１地点　掘削位置図……18
第18図　虫取遺跡　第１地点　東壁断面図……18

第19図　虫取遺跡　第２地点　掘削位置図……19
第20図　虫取遺跡　第２地点　東壁断面図……20
第21図　虫取遺跡　第２地点　出土遺物……20
第22図　虫取遺跡　第３地点　掘削位置図……20
第23図　虫取遺跡　第３地点　南壁断面図……21
第24図　板原遺跡　調査地点図……22
第25図　板原遺跡　第１地点　掘削位置図……23
第26図　板原遺跡　第１地点　北壁断面図……23
第27図　板原遺跡　第２地点　掘削位置図……24
第28図　板原遺跡　第２地点　東壁断面図……24
第29図　池浦遺跡　調査地点図……25
第30図　池浦遺跡　第１地点　掘削位置図……26
第31図　池浦遺跡　第１地点　西壁断面図……26
第32図　池浦遺跡　第２地点　掘削位置図……26
第33図　池浦遺跡　第２地点　西壁断面図……27
第34図　池浦遺跡　第３地点　掘削位置図……27
第35図　池浦遺跡　第３地点　東壁断面図……28
第36図　池浦遺跡　第４地点　掘削位置図……29
第37図　池浦遺跡　第４地点　南壁断面図……29
第38図　池浦遺跡　第４地点　出土遺物……29
第39図　池浦遺跡　第５地点　掘削位置図……30
第40図　池浦遺跡　第５地点　北壁断面図……30
第41図　七ノ坪遺跡　調査地点図……32
第42図　七ノ坪遺跡　調査地　掘削位置図……33
第43図　七ノ坪遺跡　調査地　南壁断面図……33

挿　表

表１　遺跡別届出件数……1
表２　遺跡別調査件数……2
表３　平成６年度調査結果一覧表……2
表４　遺跡別届出件数(平成５年度追加分)……5

表5　遺跡別調査件数(平成5年度追加分)……5
表6　平成5年度調査結果一覧表(追加分)……5

図　版

1……池上曽根遺跡調査坑　／　豊中遺跡第1地点調査坑
2……豊中遺跡第2地点(遺構掘削前)　／　豊中遺跡第2地点(遺構掘削後)
3……豊中遺跡第2地点ピット1　／　豊中遺跡第3地点調査坑
4……豊中遺跡第4地点調査坑　／　虫取遺跡第1地点調査坑
5……虫取遺跡第2地点調査坑　／　虫取遺跡第3地点調査坑
6……板原遺跡第1地点調査坑　／　板原遺跡第2地点調査坑
7……池浦遺跡第1地点調査坑　／　池浦遺跡第2地点調査坑
8……池浦遺跡第3地点調査坑　／　池浦遺跡第4地点調査坑
9……池浦遺跡第5地点調査坑　／　七ノ坪遺跡調査坑

第１章　埋蔵文化財調査の状況

平成６年度の泉大津市における埋蔵文化財発掘届出件数及び調査件数は、表１、２のとおりである。届出件数は平成７年１月31日現在で160件と、昨年同時期の157件よりわずかに増えている。これは、昨年まで減少傾向にあったのが、本年度は横ばい状態になったとはいえ、景気の低迷が相変わらず続いていることを示している。届出工事等の種別でみると、個人住宅関連工事が86％(79％)、工場・倉庫１％(２％)、店舗・事務所４％(４％)、共同住宅２％(11％)となっていて、個人住宅関連工事の増加と共同住宅建設の減少が目立つ他は、昨年とほぼ同様である。((　　) 内は昨年の数字) 遺跡別の調査件数が最も多いのは、池浦遺跡の５件で(前年度追加報告分含む)、次いで豊中遺跡の４件である。これらは、そのほとんどが共同住宅及び店舗の建設に先立つ調査である。その調査方法はトレンチ掘削による土層断面及び底面の観察で、ほとんどの地点では遺構・遺物等は認められず、全面調査に至るものはなかった。また今年度も個人住宅の建設工事に関しては、基礎掘削深度が浅いことから、すべて立会調査とした。

表１　遺跡別届出件数　　(平成６年４月１日～平成７年１月31日)

遺跡名	件数	内訳						
		個人住宅	ガス・水道	電話・電気	工場・倉庫	店舗・事務所	共同住宅	その他
池上曽根遺跡	27	10	13	3				1
豊中遺跡	39	11	20	3	1	1	1	2
虫取遺跡	23	6	9	5	1	1		1
大園遺跡	3	2	1					
板原遺跡	13	1	4	2		1	1	4
池浦遺跡	30	7	12	5		2	1	3
穴師遺跡	4	1	3					
七ノ坪遺跡	7	1	3	1		2		
東雲遺跡	7		6	1				
穴田遺跡	4	2	2					
森遺跡	1		1					
助松遺跡	1		1					
苅田城跡	1						1	
計	160	41 (26％)	75 (47％)	20 (13％)	2 (1％)	7 (4％)	4 (2％)	11 (7％)

表 2　遺跡別調査件数

（平成６年４月１日～平成７年１月31日）

遺跡名	件数	内訳	
		発掘調査	立会調査
池上曽根遺跡	8		8
豊中遺跡	13	3	10
虫取遺跡	9	3	6
大園遺跡	1		1
板原遺跡	3	1	2
池浦遺跡	12	3	9
七ノ坪遺跡	4	1	3
東雲遺跡	2		2
穴田遺跡	2		2
助松遺跡	1		1
計	55	11	44

表 3　平成６年度調査一覧表

（平成６年４月１日～平成７年１月31日）

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考（調査番号）
4・6	東豊中町1丁目3－36	豊中遺跡	立会調査	変電所施設建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められなかった。
4・11	北豊中町2丁目9－10	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
4・18	綾井49－1	大園遺跡	立会調査	店舗建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
4・26	板原291、292、293、294、295－1、298、299－1	虫取遺跡	発掘調査	倉庫及び作業場建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。(9409)
5・7	曽根町1丁目204－3	池上曽根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・12	北豊中町3丁目978－3の一部	豊中遺跡	立会調査	長屋住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・12	北豊中町3丁目978－3の一部	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
5・13	東雲町46－4	東雲遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は耕土内におさまっていた。
5・19	板原1304の一部	板原遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9410）
5・20	北豊中町2丁目366－3	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考（調査番号）
5・30	北豊中町1丁目498－1	七ノ坪遺跡	立会調査	給排水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
6・1	池浦町4丁目448－2～232－8	池浦遺跡	立会調査	公共下水道建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
6・8	下条町120－1、－2	池浦遺跡	発掘調査	看護婦宿舎建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9411）
6・15	北豊中町2丁目506－11	七ノ坪遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
6・22	我孫子69－11	穴田遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
6・27	曽根町1丁目24、25の一部	池上曽根遺跡	立会調査	老人集会場建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
6・30	宇多1046－49	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
7・4	池浦町4丁目301－1	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
7・5	森町2丁目138－1	池上曽根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、観察の結果遺構・遺物等は認められなかった。
7・6	我孫子291－7	虫取遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められなかった。瓦・瓦器・青磁の各小破片検出　（9412）
7・12～14	豊中町2丁目953－13	豊中遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事に先立つ調査で、ピット2個、土師質土器片・瓦片検出　（To-39）
7・18	下条町614－2	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
7・19	下条町123－1の一部124の一部125	池浦遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構は認められなかった。弥生土器鉢口縁部破片検出（9412）
7・21	東雲町1丁目55－1、－3、－4の各一部	東雲遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
7・25	虫取10－10	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
8・2	寿町90－1、447－1下条662－8の各一部	池浦遺跡	発掘調査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9414）
8・11	北豊中町2丁目366－3	豊中遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
8・18	我孫子426	虫取遺跡	立会調査	水道管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
8・23	北豊中町2丁目3－17	七ノ坪遺跡	立会調査	排水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
8・30	豊中町2丁目459－1の一部	豊中遺跡	発掘調査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構は認められなかった。瓦片検出　（9415）
8・31	寿町623－6	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
9・2	森町1丁目55－1の一部	池上曽根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
9・8	我孫子208－1、210－1宇多1048－1	虫取遺跡	立会調査	公共下水道建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考（調査番号）
9・14	豊中町2丁目953－13	豊中遺跡	立会調査	給水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
10・1	我孫子36－3	穴田遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・3	寿町76－10	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・3	寿町76－17	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・3	寿町76－18	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
10・17	松之浜町1丁目754－6	池浦遺跡	立会調査	下水道管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
10・18	曽根町1丁目140-3、-6 193	池上曽根遺跡	立会調査	宅地造成工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
11・2	北豊中町3丁目975－9、－33	豊中遺跡	立会調査	宅地造成に係る擁壁工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・7	森町1丁目3－19	池上曽根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・8	虫取35－1、－4	虫取遺跡	発掘調査	店舗建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9416）
11・20	池浦町1丁目41－3	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・22	板原1303	板原遺跡	立会調査	分譲住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
11・30	東豊中町2丁目6－26	豊中遺跡	立会調査	給排水管埋設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
12・7	豊中町2丁目513－3の一部	七ノ坪遺跡	発掘調査	倉庫付事務所建設工事に先立つ調査で、遺構は認められなかった。土師器片検出（9417）
12・12	森町2丁目286－6	池上曽根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
12・21	豊中町2丁目956－2	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・9	池浦町4丁目133-1、-3 134-3	池浦遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・10	穴田205－1	板原遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
1・20	宮町139－1	池浦遺跡	立会調査	体育館会議室建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・25	森町1丁目265-1 266-1の一部	池上曽根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。
1・27	北豊中町2丁目989の一部	豊中遺跡	発掘調査	倉庫・住宅建設工事に先立つ調査で、基礎掘削深度には遺構は認められなかった。（9501）
1・30	池浦町2丁目433－6	虫取遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、基礎は盛土内におさまっていた。

表 4　遺跡別届出件数（平成５年度追加分）　（平成６年２月１日～平成６年３月31日）

遺跡名	件数	内訳						
		個人住宅	ガス・水道	電話・電気	工場・倉庫	店舗・事務所	共同住宅	その他
池上曽根遺跡	6	3	1					
豊中遺跡	9	5	1	1			1	1
虫取遺跡	5	1	3		1			
大園遺跡	1					1		
板原遺跡	3	2	1					
池浦遺跡	6	1	3	1			1	
東雲遺跡	5	1	3	1				
計	35	13	12	3	1	1	3	2

表 5　遺跡別調査件数（平成５年度追加分）　（平成６年２月１日～平成６年３月31日）

遺跡名	件数	内訳	
		発掘調査	立会調査
池上曽根遺跡	3	2	1
豊中遺跡	2	1	1
板原遺跡	1	1	
池浦遺跡	3	2	1
計	9	6	3

表 6　平成５年度調査一覧表（平成５年度追加分）　（平成６年２月１日～平成６年３月31日）

月日	調査地番	遺跡名	調査内容	備考（調査番号）
2・3	寿町66－1	池浦遺跡	発掘調査	診療所建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9404）
2・9	板原1311	板原遺跡	発掘調査	倉庫建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9405）
2・13	曽根町2丁目1－5、4－1	池上曽根遺跡	立会調査	個人住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
2・24	曽根町1丁目436	池上曽根遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9406）
3・2	北豊中町3丁目976－18	豊中遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9407）
3・4	寿町455－1	池浦遺跡	発掘調査	共同住宅建設工事に先立つ調査で、遺構・遺物等は認められなかった。（9408）
3・4	森町2丁目228－13	池上曽根遺跡	発掘調査	個人住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。
3・30	北豊中町2丁目366－35	豊中遺跡	立会調査	個人住宅建設工事に係る立会調査で、基礎掘削の不必要な工法であった。
3・30	下条町285－3、286、287、288－3	池浦遺跡	立会調査	共同住宅建設工事による掘削で、遺構・遺物等は認められなかった。

1.大園遺跡　2.森遺跡　3.牛滝塚　4.助松遺跡　5.池上曽根遺跡　6.豊中遺跡　7.七ノ坪遺跡
8.穴師遺跡　9.池浦遺跡　10.東雲遺跡　11.穴師薬師寺跡　12.穴田遺跡　13.板原遺跡　14.虫取遺跡
15.大福寺跡　16.苅田城跡　17.千原城跡　18.真鍋城跡　19.城の山

第1図　遺跡分布図

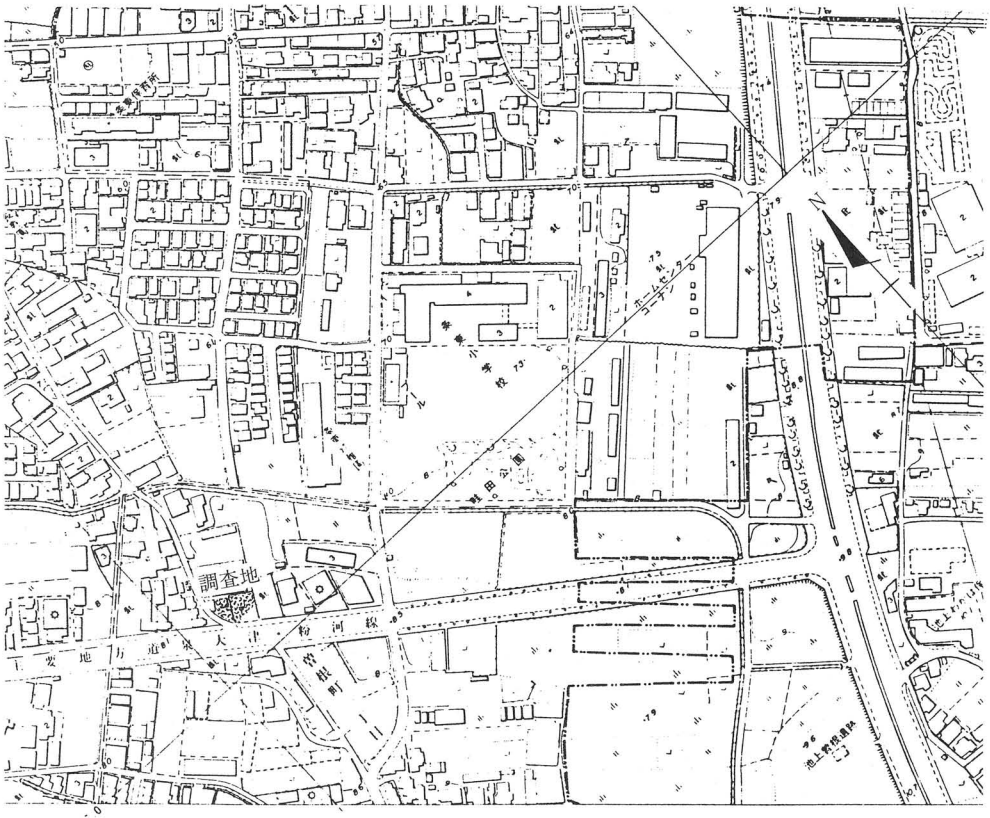
第２章　発掘調査成果

池上曽根遺跡

本遺跡は泉大津市の東部北寄りにあり、豊中遺跡、七ノ坪遺跡の北側に位置する。東西500ｍ、南北1,500ｍの規模の遺跡で、中心部分は和泉市池上町にある。遺跡の存在は、水田に土器片や石鏃が散布していることから、古く明治時代には既に知られていた。

この遺跡の重要性を確定させたのは、昭和40年代中頃に行われた、第２阪和国道（現国道26号線）敷地内の発掘調査である。この結果、全時期にわたる集落遺跡で、２重の環濠が集落を囲んでいることや、遺物の出土量が膨大であることなどから、弥生時代の社会を復元するうえで重要な役割を果たすとして、国史跡に指定されている。

本年度はこの遺跡内１箇所で発掘調査を実施した。

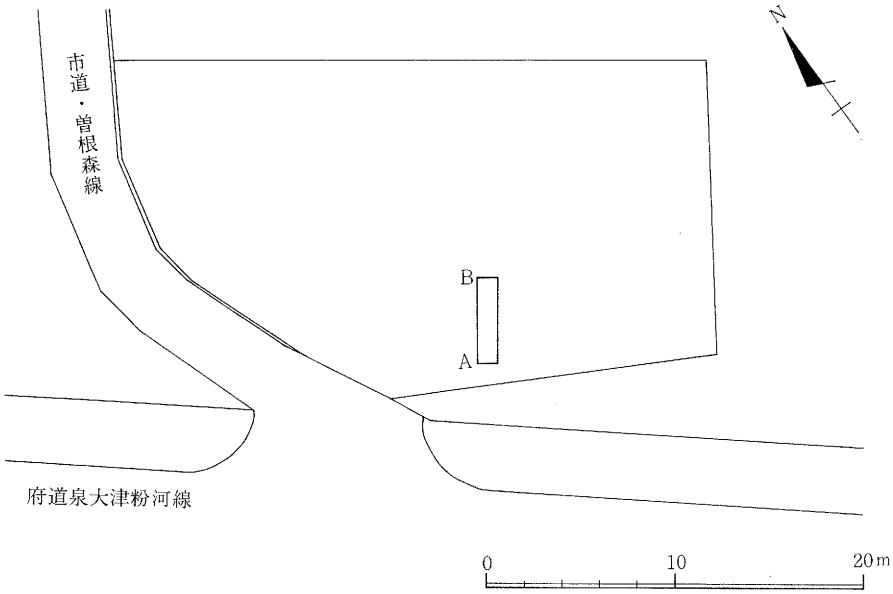


第２図　池上曽根遺跡調査地点図（１：5,000）

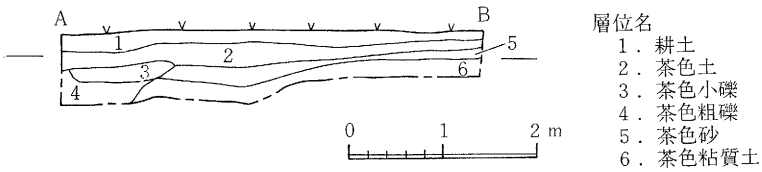
曽根町１丁目436（調査番号 9406）

当該地は、遺跡の中央部やや北寄りの地点で、475.87㎡の地に鉄骨３階建ての共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の南部分に、幅1.1ｍ、長さ4.5ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ75cmまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第３図　池上曽根遺跡　調査地　掘削位置図



第４図　池上曽根遺跡　調査地　西壁断面図

調査坑の層序は上部から、耕土（１層・10～20cm）、茶色土（２層・10～30cm）が見られ、その下層は北側から３分の２ほどが茶色小礫（３層・５～20cm）、茶色粗礫（４層・20cm以上）となり、その南側は３層、４層を肩として上部は茶色砂（５層・最大幅15cm）

がレンズ状に、下は茶色粘質土（６層・35cm以上）が堆積していた。１、２、４、６層のラインは、北方向へ行くにしたがいレベルがあがっている。

２層の茶色土は遺物包含層で、土師器、須恵器、磁器、摺鉢の各破片が見られたが、何れも小片のため図示できない。

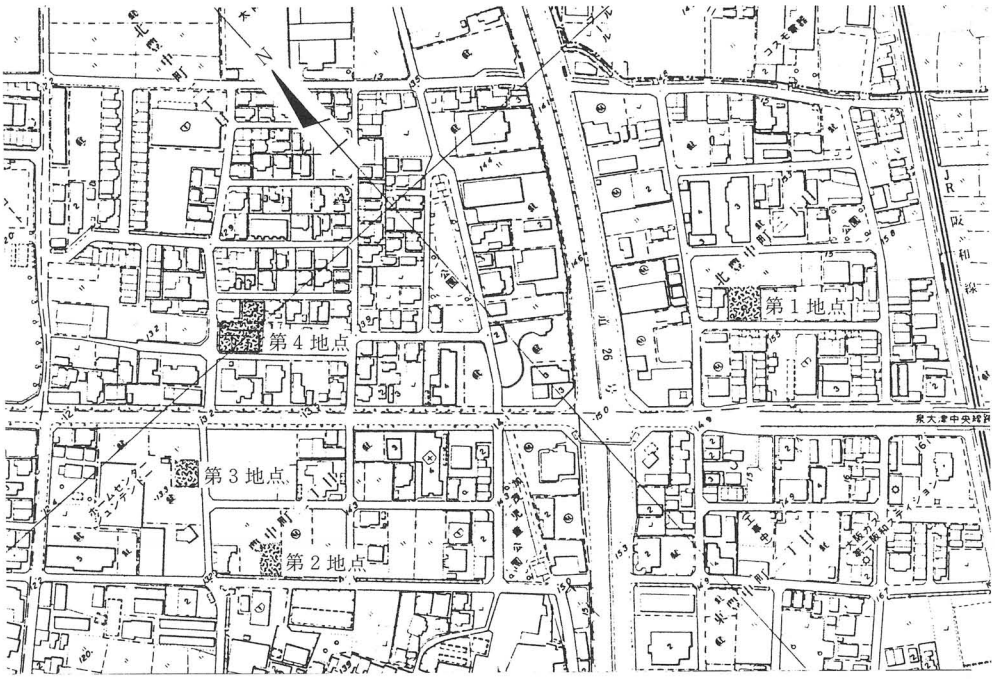
観察の結果、下層部には砂及び礫が堆積していて、遺構は認められず、付近の既往調査結果とも同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成６年２月24日）

豊中遺跡

本遺跡は、泉大津市の東部に所在し、南北約1,100ｍ、東西約500ｍの範囲を有する遺跡で、一部は和泉市域に及んでいる。遺跡内を国道26号線が貫通し、両側は土地区画整理事業が実施され、店舗や共同住宅、個人住宅が主に建築されており、水田部は減少しつつある。現在までの発掘調査結果で、古池（現在は埋め立てられている）から中期後半に属する縄文土器の破片や布留式の土師器、８世紀までの須恵器、古墳時代の木製品が大量に検出されている。また古墳時代の竪穴住居や掘立柱建物、鎌倉時代の倉庫建物や掘立柱建物もあり長期間集落が営まれていたことが窺える。更に遺跡内には大福寺跡があり、平安時代末から明治時代初期まで存続していたことが判明している。

本年度はこの遺跡内での４箇所の調査成果を報告する。

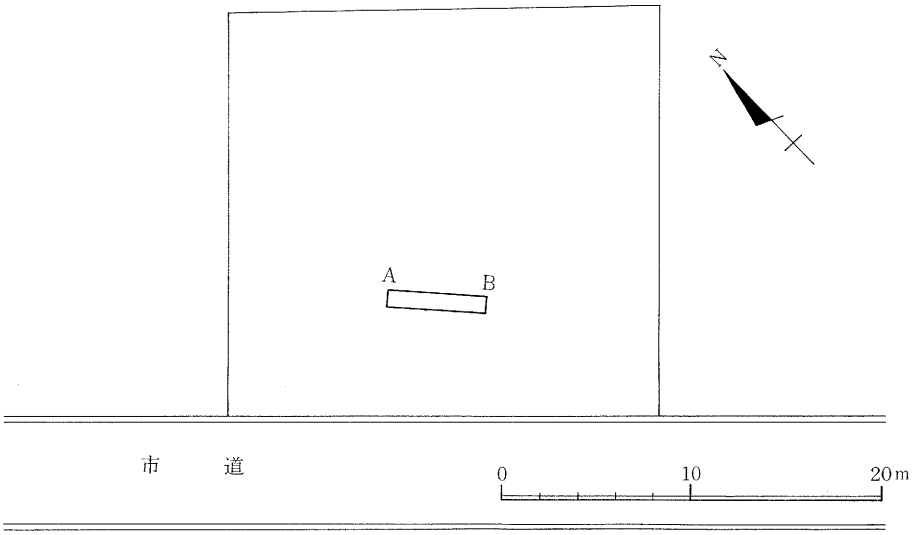


第５図　豊中遺跡調査地点図（１：5,000）

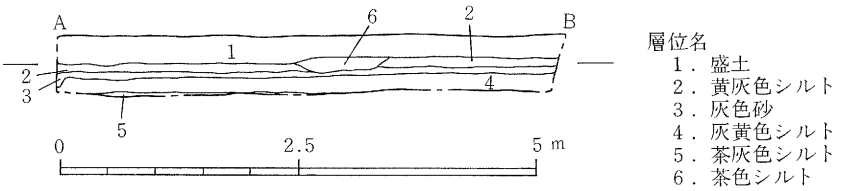
北豊中町３丁目976－18（第１地点　調査番号 9407）

当該地は、豊中遺跡の東寄り部分で、497.86㎡の敷地に鉄骨３階建て共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の北西部分に、幅0.9ｍ、長さ5.3ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.6ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第６図　豊中遺跡　第１地点　掘削位置図



第７図　豊中遺跡　第１地点　北壁断面図

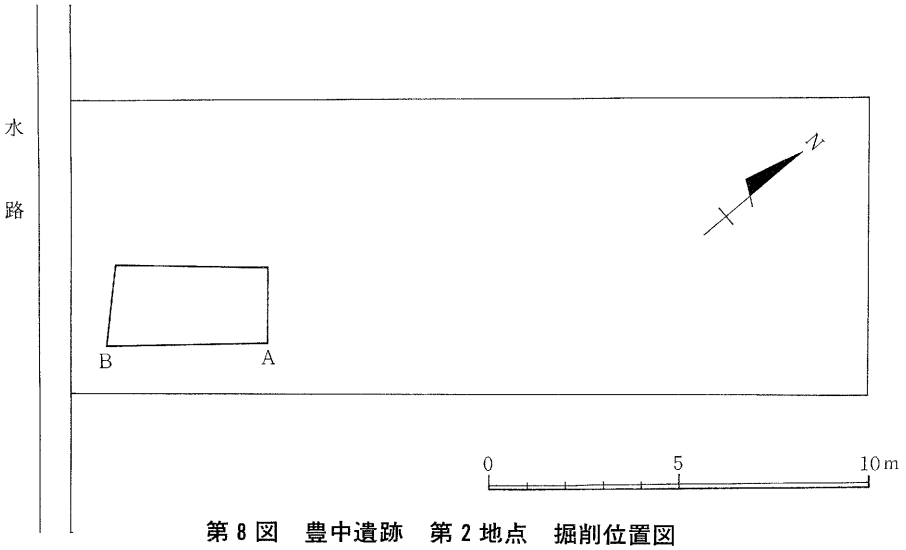
調査坑の層序は上部から、盛土（１層・25～30cm）、黄灰色シルト（２層・10cm）となり、中央部で一層と２層の間に長さ１ｍ、最大幅17cmでレンズ状に灰色砂（３層）が見られた。その下層は、灰黄色シルト（４層・５cm）、茶灰色シルト（５層・20cm以上）、茶色シルト（６層・５cm以上）となっている。これらの層はほぼ水平に堆積していた。２層の黄灰色シルトは、所謂床土と呼ばれるものである。２、３、４層は遺物包含層で土師器や瓦器の破片が見られた。

観察の結果、遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。　（調査日　平成５年３月２日）

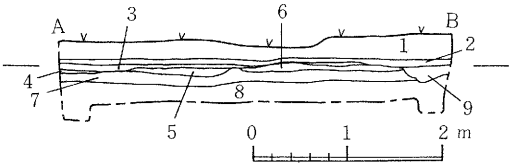
豊中町２丁目953－13（第２地点　調査番号To－39）

当該地は、豊中遺跡の西寄り部分で、165.31㎡の敷地に鉄骨２階建て個人住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東南寄り部分に、N40°Eの方向で幅2.0m、長さ4.0mの規模の調査坑を設定した。人力で耕土・床土を除去し、東壁際に幅30cm、深さ60cmの土層観察用トレンチを掘削して、遺構面を確認した。



第８図　豊中遺跡　第２地点　掘削位置図

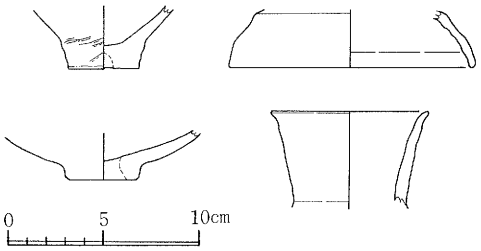


層位名
1．耕土
2．床土
3．灰茶色土
4．灰色砂質土
5．灰黄色砂質土
6．灰茶色粘質土
7．茶黄色粘質土
8．灰黄色砂質土
9．灰茶色砂質土

第９図　豊中遺跡　第２地点　東壁断面図

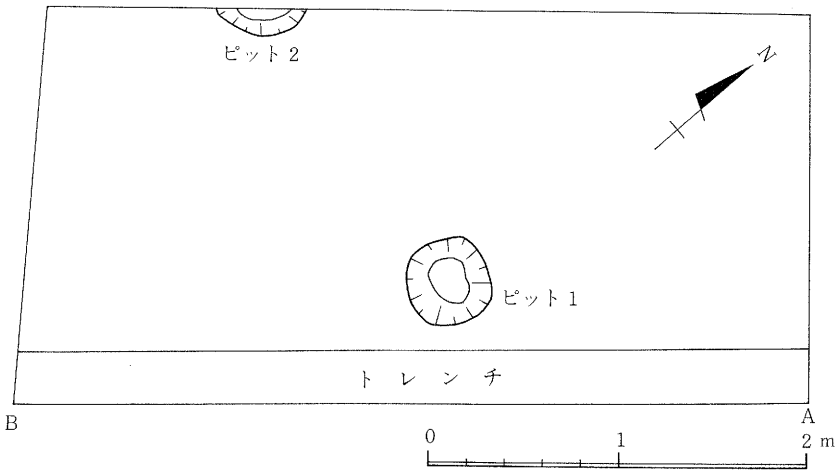
調査坑の層序は上部から、耕土（１層・20cm）、床土（２層・茶灰色土・10cm）となり、灰茶色土（３層・最大５cm）が南方向へ行くに従って薄くなり消滅する。その下で、北端では灰色砂質土（４層）、南寄りで灰黄色砂質土（５層）、灰茶色粘質土（６層）が茶黄色粘質土（７層・10cm）の上にレンズ状に堆積していた。この７層の茶黄色粘質土上面が遺構面であった。更にその下は灰黄色砂質土（８層・40cm以上）となっている。また南端で２層の床土の下面から６層、７層、８層を切って灰茶色砂が見られた。

遺物は、６層の灰茶色粘質土と７層の茶黄色粘質土の間に、弥生土器（後期）の底部２個、須恵器の口縁部１個、同坏蓋１個（第10図）のほか、須恵器、土師器、磁器等の破片を検出した。



第10図　第２地点　出土遺物

遺構は、中央部東寄りにピット１と西壁にかかってピット２の２個が検出された。



第11図　第２地点　平面図

ピット１　上縁は長軸42cm、短軸37cm、底縁は長軸26cm、底縁20cmのほぼ円形を呈しており、深さは16cmの規模である。埋土は灰茶色粘質土で、土師質の土器片４点や瓦片１点が底部から浮いた状態で検出された。何れも図示出来るほどの大きさではなかった。

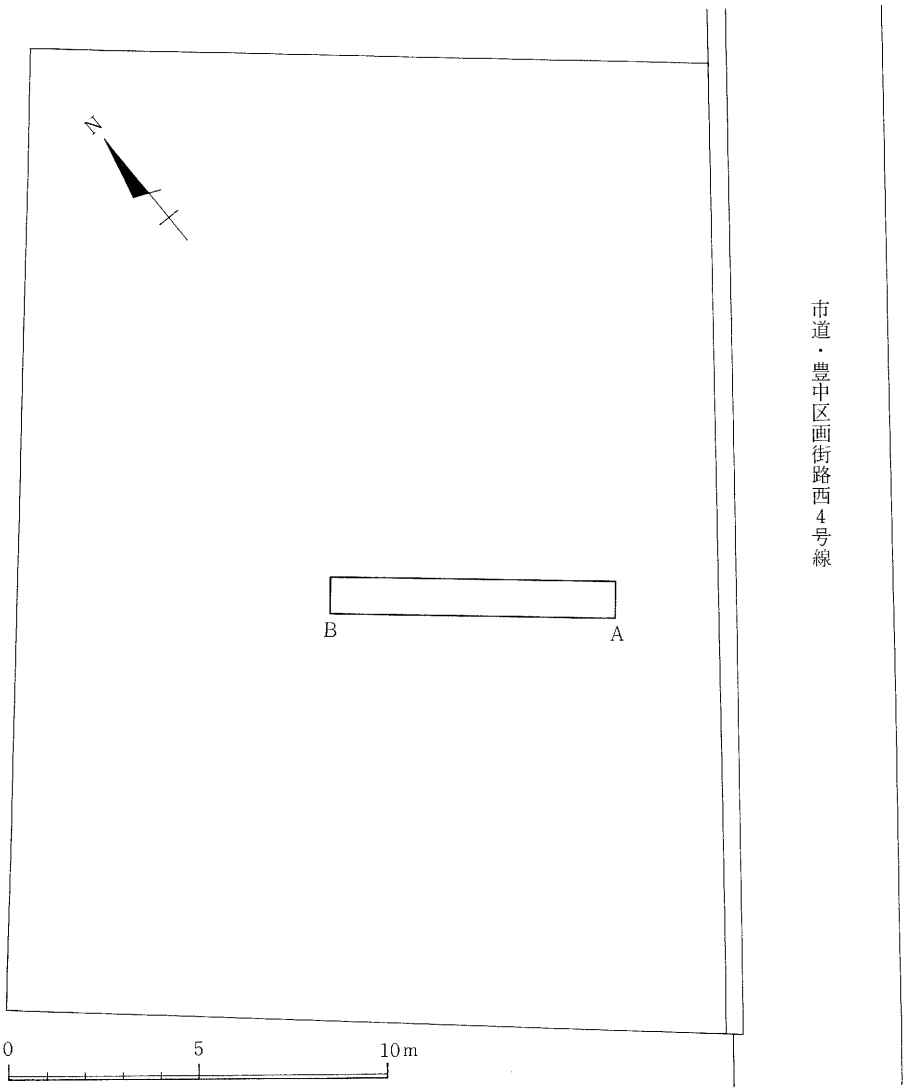
ピット２　西壁にかかるため規模は不明であるが、検出最大幅は上縁部で52cm、底縁部で33cm、深さ10cmであった。埋土はピット１と同様である。遺物は検出されなかった。

遺構及び遺構面の時期を確定できるものは無かったが、出土遺物及び既往の調査結果から判断して、中世頃であろうと思われる。

土層断面図の作成、土層及び全体の写真撮影、平板測量での平面図作成後、人力で埋め戻しを行って、調査を終了した。　（調査日　平成６年７月12日～14日）

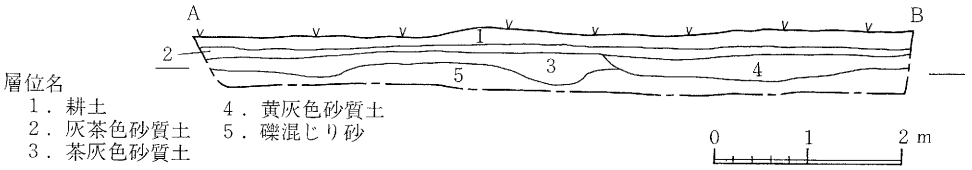
豊中町２丁目459－１の一部（第３地点　調査番号 9415）

当該地は、豊中遺跡の北西端で大福寺跡にあたる地点で、471.34m²の敷地に鉄骨平家建て店舗の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第12図　豊中遺跡　第３地点　掘削位置図

開発区域の南東部分に、幅0.9ｍ、長さ7.6ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.6ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第13図　豊中遺跡　第３地点　南壁断面図

調査坑の層序は上部から、耕土（１層・10～20cm）、灰茶色砂質土（２層・５～10cm）となり、その下は東側では茶灰色砂質土（３層・10～35cm）、西側では黄灰色砂質土（４層・15～30cm）と続き、礫混じり砂（５層・25cm以上）が堆積している。

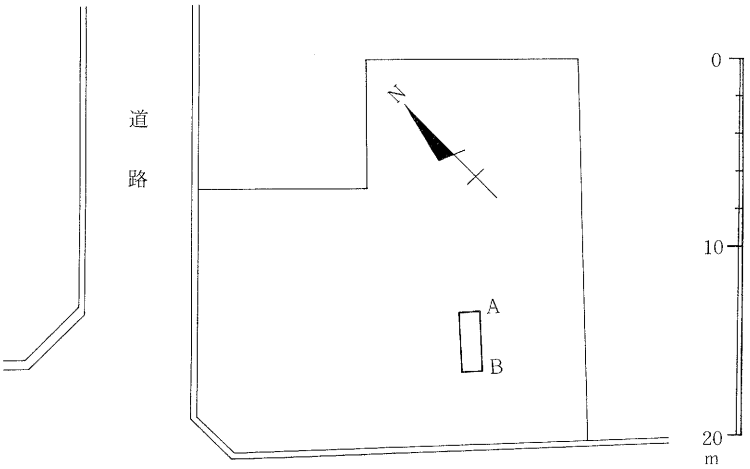
観察の結果、３層の茶灰色砂質土及び４層の黄灰色砂質土から、瓦片が出土した。遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

まとめ　当該地の字名は「大福寺」で、明治時代まで寺院が存在していたが、既に建立位置及び規模は不明となっている。本調査地は、遺構こそ発見できなかったが、その寺域の一部と思われ、出土した瓦片は廃寺になった時のものであると考えられる。

（調査日　平成６年８月30日）

北豊中町２丁目989の一部（第４地点　調査番号 9501）

当該地は、豊中遺跡の北部西寄りにあたる地点で、357.13m²の敷地に鉄骨３階建て住宅＋倉庫の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

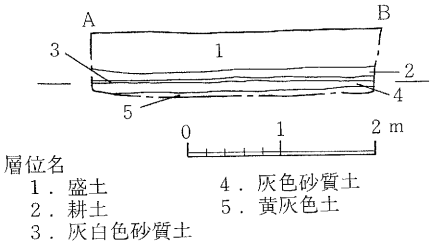


第14図　豊中遺跡　第４地点　掘削位置図

開発区域の南西部分に、幅1.1ｍ、長さ3.1ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.7ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察

を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（１層・40cm）、耕土（２層・８～10cm）、灰白色砂質土（３層・４cm）、灰色砂質土（４層・６～10cm）となり、その下層は黄灰色土（５層・８cm以上）が堆積している。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。



第15図　第４地点　東壁断面図

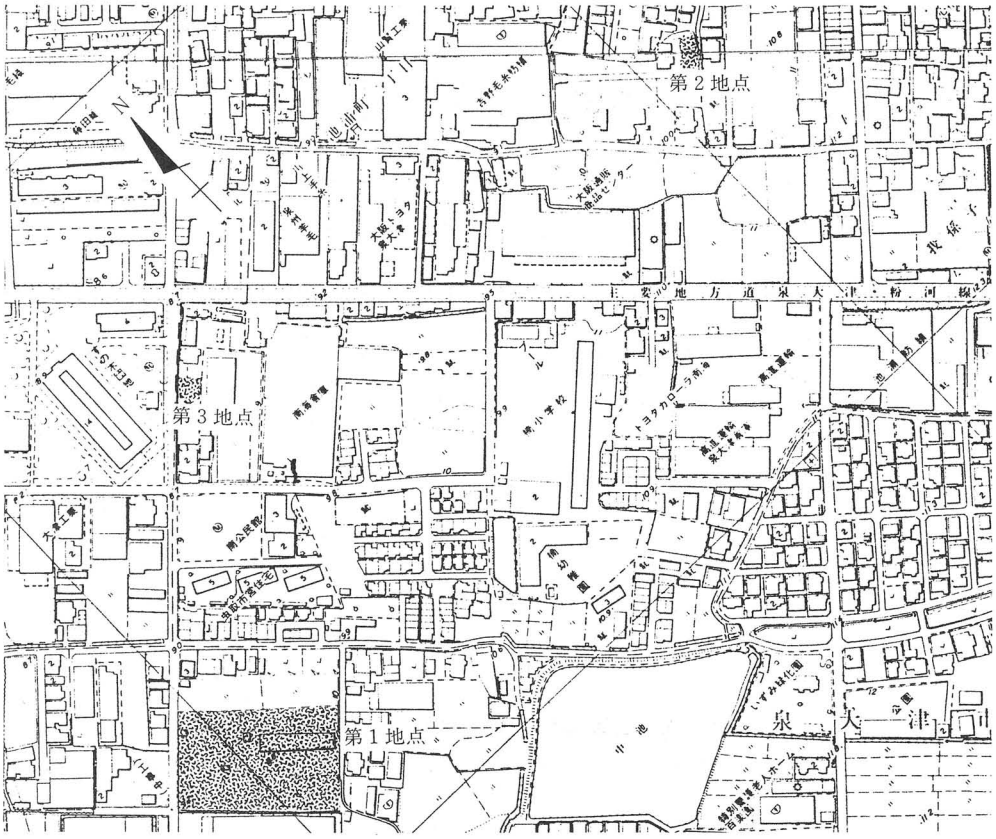
観察の結果、５層の黄灰色土面に径約１ｍの輪郭が見られ、埋土に瓦片が混っていた。井戸遺構と思われたが、建物の基礎掘削が浅くなるということなので、遺構検出は行わず、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成７年１月27日）

虫取遺跡

本遺跡は、泉大津市の南西部に所在し、市立南公民館の地を中心にして、南西 750 m、南北 850 m の規模の遺跡である。田圃や畑には須恵器や土師器の破片が散布していて、現在までに、分譲住宅や共同住宅、小学校敷地、市道の建設に先立ち発掘調査が実施され、弥生時代前期の溝や住居跡が発見されている。また縄文時代後期及び晩期の土器が破片で検出されており、近畿地方の縄文文化が及んでいたことを窺い知ることができる。

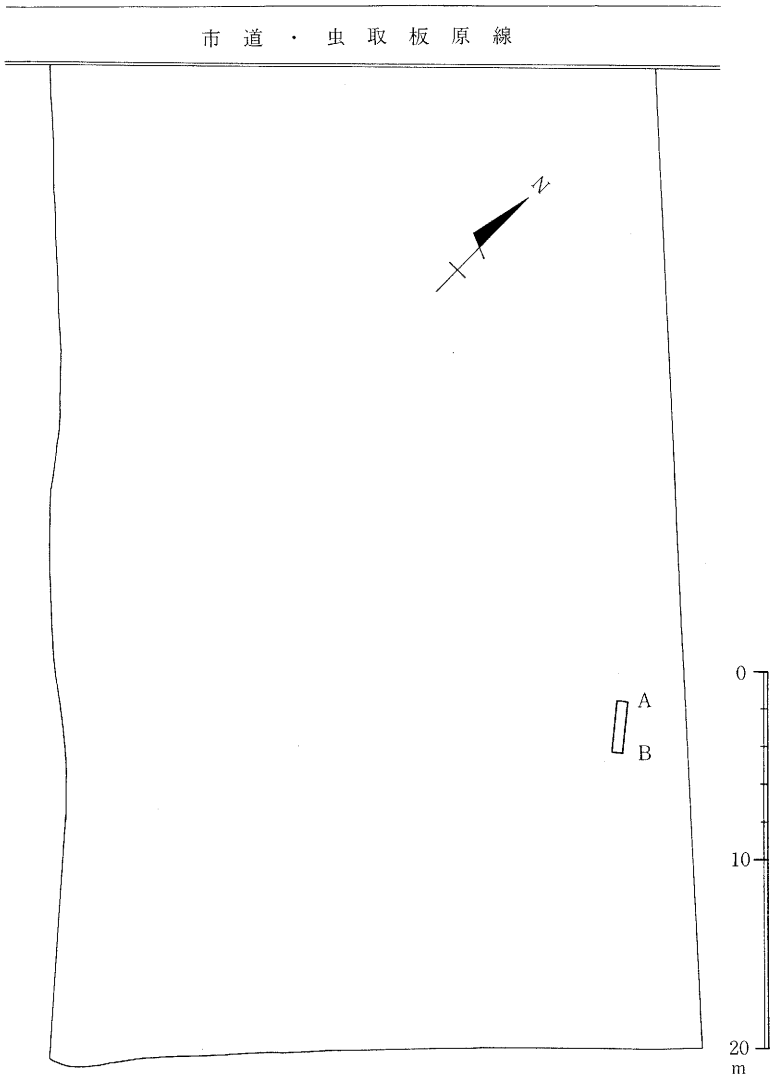
本年度はこの遺跡内での 3 箇所の調査成果を報告する。



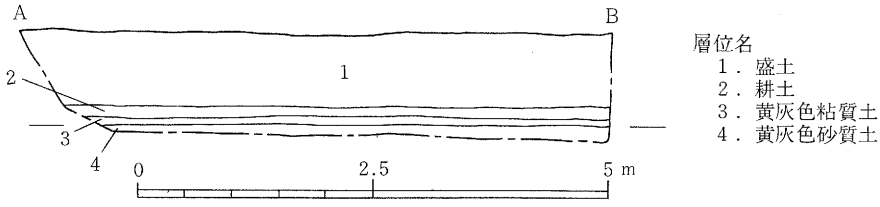
第16図　虫取遺跡調査地点図（1：5,000）

板原291、292、293、294、295-1、298、299-1（第 1 地点　調査番号 9409）

当該地は、遺跡の中心部分からやや南西寄りの地点で、6,654 m²の地に鉄骨 3 階建ての倉庫及び作業場の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第17図　虫取遺跡　第１地点　掘削位置図



第18図　虫取遺跡　第１地点　東壁断面図

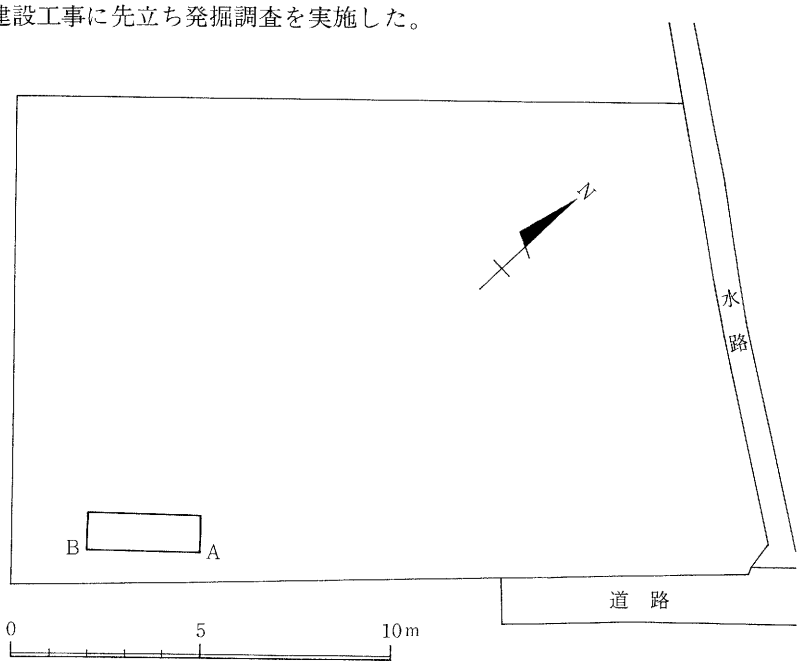
開発区域の北東部でN45°W方向に、幅1.1m、長さ6.3mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.3mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・80cm）、耕土（2層・10～12cm）、黄灰色粘質土（3層・6～10cm）で、黄灰色砂質土（4層・16cm以上）となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。

観察の結果、遺構・遺物は認められず、付近の既往調査とも同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。　（調査日　平成6年4月26日）

我孫子291－7（第2地点　調査番号 9412）

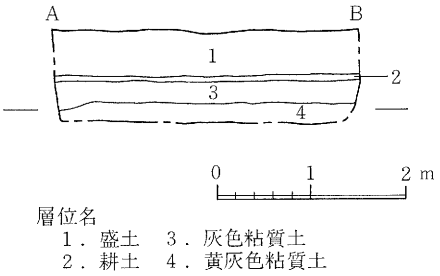
当該地は、虫取遺跡の東端で、222.42m²の地に軽量鉄骨2階建て個人住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第19図　虫取遺跡　第2地点　掘削位置図

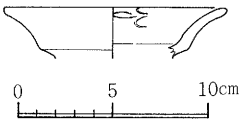
開発区域の北東部でN45°E方向に、幅1m、長さ3.2mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ95cmまで掘削した。その後人力で壁面及び床面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・50cm）、耕土（2層・5cm）、灰色粘質土（3層・24～30cm）で、黄灰色粘質土（4層・23cm以上）となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。



第20図　第2地点　東壁断面図

出土遺物として、3層の灰色粘質土から青磁皿（第21図）のほかに布目丸瓦・瓦器の各破片が発見されたが、何れも小片のため図示できない。当該地一帯は「弘法寺」の字名が残っており、これらは寺院に関連した遺物と思われる。

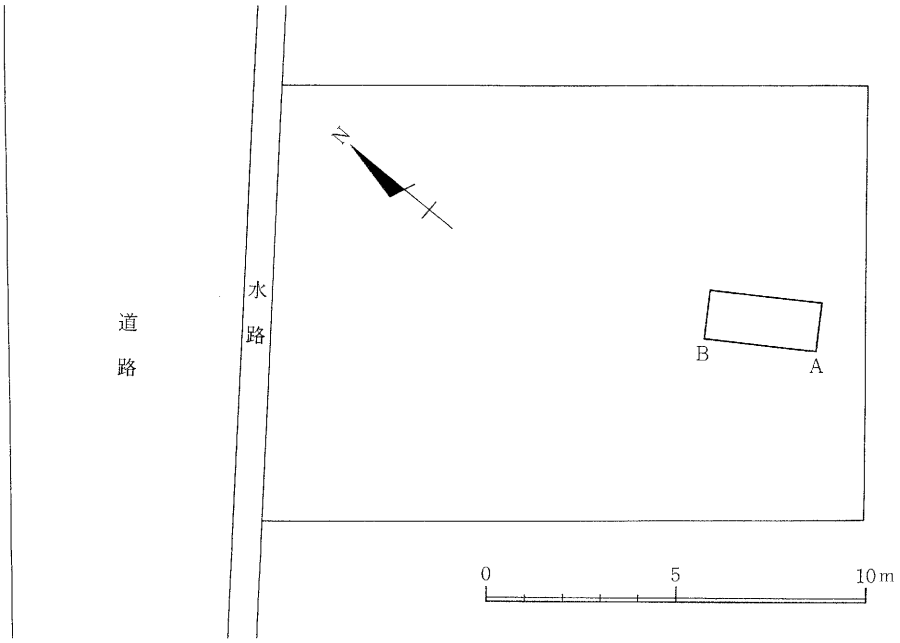


第21図　第2地点出土遺物

観察の結果、遺構は認められず、西側隣接地の既往調査結果と同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成6年7月6日）

虫取35－1、－4の各一部（第3地点　調査番号 9416）

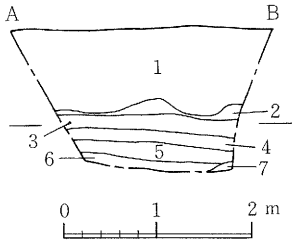


第22図　虫取遺跡　第3地点　掘削位置図

当該地は、虫取遺跡のほぼ中央部で、180.00m²の地に軽量鉄骨２階建て店舗付き作業場の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東側に、幅0.9ｍ、長さ1.8ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.5ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（１層・75～85cm）、耕土（２層・２～20cm）、灰黄色粘質土（３層・15～20cm）、灰茶色粘質土（４層・13cm）褐灰色粘質土（５層・20cm）で、暗褐灰色粘質土（６層・10cm以上）となる。そして西隅で黄灰色粘質土（７層）が５層の下部と６層の部分にみられた。４層の灰茶色粘質土層以下６層の暗褐灰色粘質土層までは、漸移的に土色が変化しており、層区分のラインを引くのは困難であった。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。



層位名
１．盛土　　５．褐灰色粘質土
２．耕土　　６．暗褐灰色粘質土
３．灰黄色粘質土　７．黄灰色粘質土
４．灰茶色粘質土

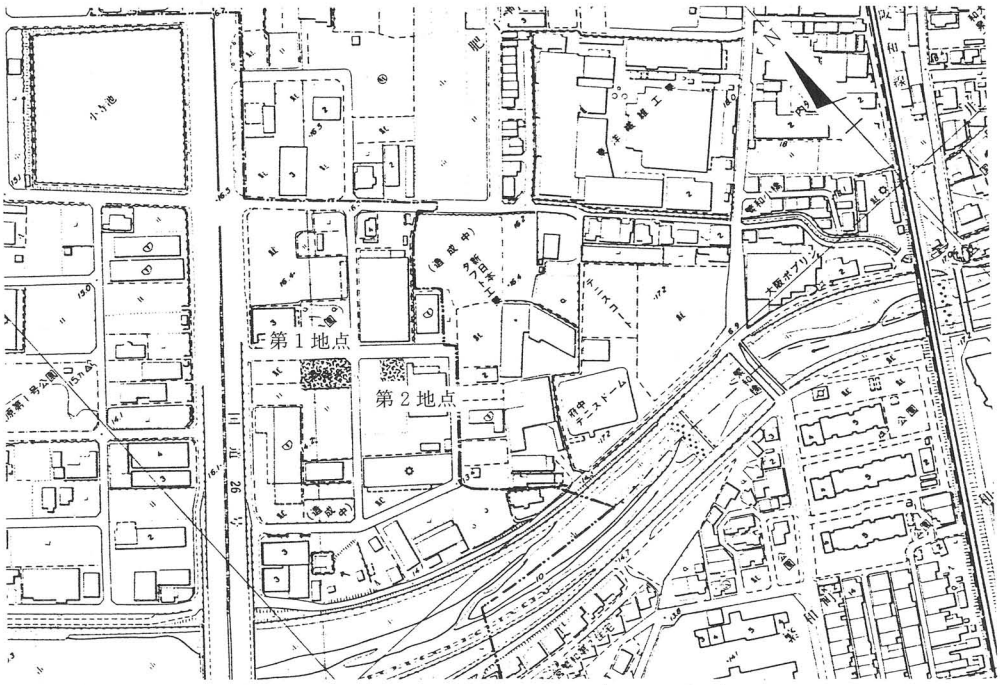
第23図　第３地点　南壁断面図

観察の結果、遺構・遺物等は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。　（調査日　平成６年11月８日）

板原遺跡

本遺跡は、泉大津市の南部に所在し、直径約650ｍのほぼ円形の範囲を有するが、東半分は和泉市域に属する遺跡である。中心部を国道26号線が貫通しており、付近は土地区画整理事業が行われ、縦横に走る市道に面して開発行為が徐々に進行している。現在までに国道や共同住宅、個人住宅、店舗等の建設に先立ち発掘調査が実施されている。その調査で縄文時代の焼土や後期の土器、近世の瓦窯等が検出されている。また須恵器や土師器の破片が散布している。

本年度はこの遺跡内での２箇所の調査成果を報告する。



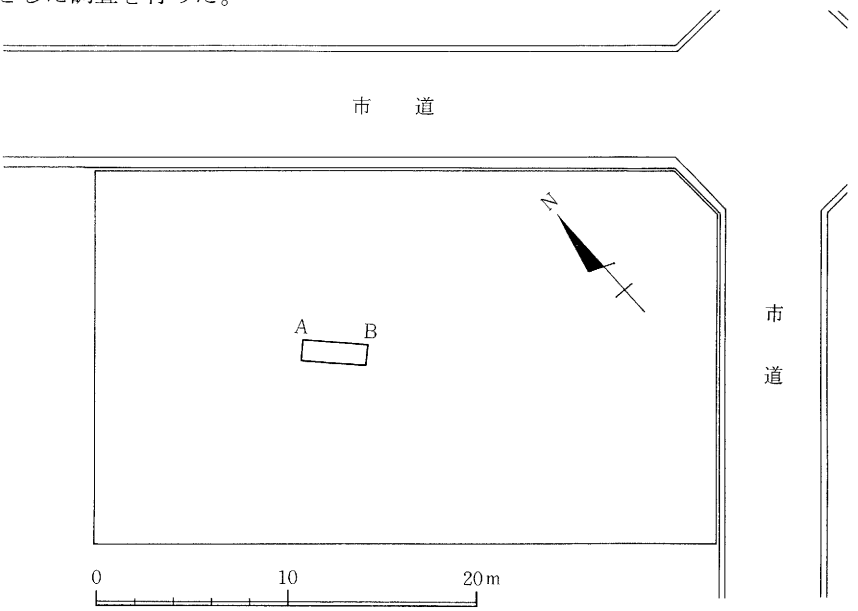
第24図　板原遺跡調査地点図（１：5,000）

板原1311（第１地点　調査番号 9405）

当該地は、板原遺跡の南端で和泉市との境界に近い地点で、637.76㎡の敷地に鉄骨平屋建て倉庫の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

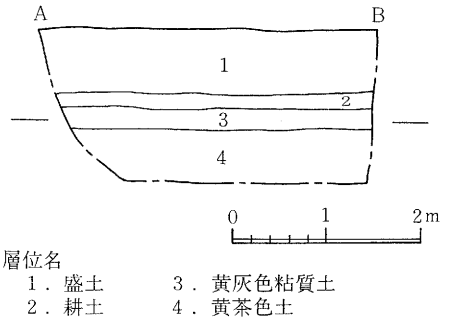
開発区域の中央部に、幅1.1ｍ、長さ3.6ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.6ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を

中心とした調査を行った。



第25図　板原遺跡　第１地点　掘削位置図

調査坑の層序は上部から、盛土（１層・70cm）、耕土（２層・10～15cm）、黄灰色粘質土（３層・20～24cm）で、黄茶色土（４層・55cm以上）となっている。３層及び４層は土地区画整理時に盛土されたものであり、旧地層は更に深くなる。



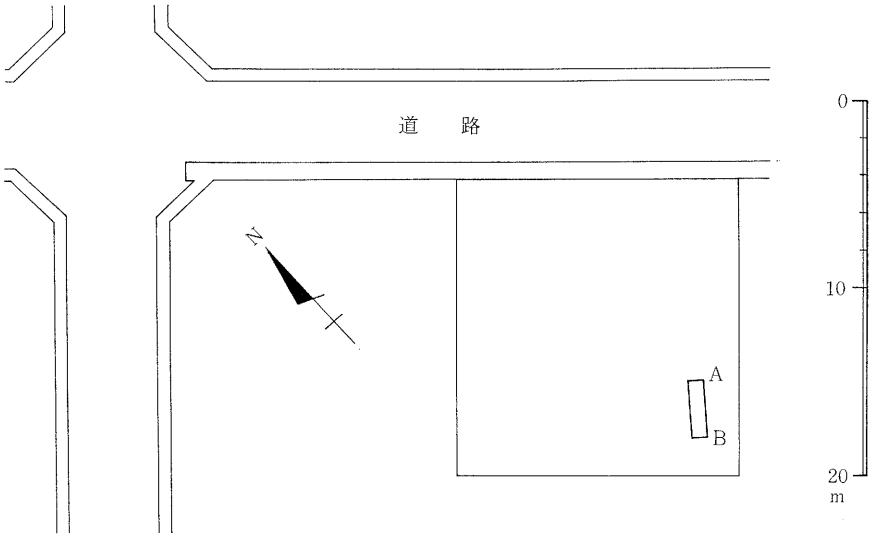
第26図　第１地点　北壁断面図

観察の結果、遺構・遺物は認められず、基礎掘削深度は設計ＧＬから85cmと浅く、盛土内におさまるので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成６年２月９日）

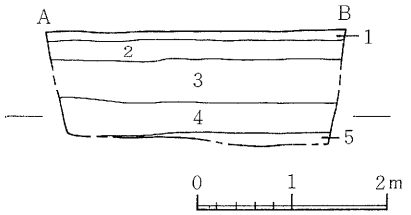
板原1304の一部（第２地点　調査番号 9410）

当該地は、板原遺跡の南端で和泉市との境界に近い地点で、237.91㎡の敷地に２階建て個人住宅の建設が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第27図　板原遺跡　第２地点　掘削位置図

開発区域の南部分に、幅0.8ｍ、長さ3.1ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.2ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



層位名
１．砕石
２．盛土
３．灰黒色土
４．灰黄色粘質土
５．礫混じり土

第28図　第２地点　東壁断面図

調査坑の層序は上部から、砕石（１層・10cm）、盛土（２層・20cm）、灰黒色土（３層・40～45cm）、灰黄色粘質土（４層・30～35cm）で、礫混じり土（５層・15cm以上）となっている。３層の灰黒色土は土地区画整理時の盛土である。

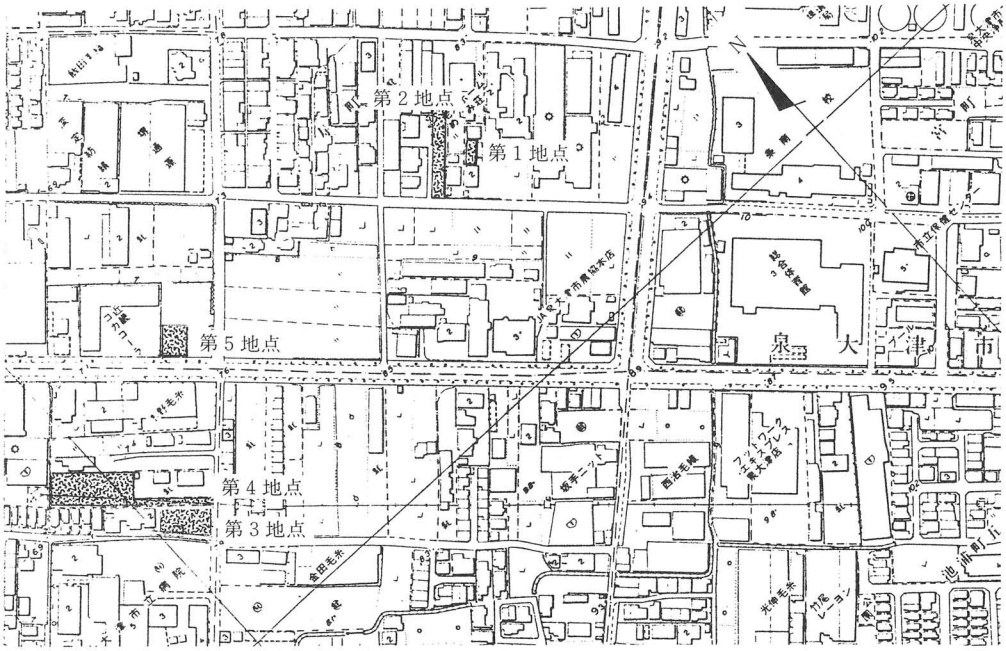
観察の結果、遺構・遺物は認められず、隣接付近の既往調査結果とも同様であり、基礎掘削深度は38cmと浅いので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成６年５月19日）

池浦遺跡

本遺跡は、泉大津市の中央部に所在し、南北約400ｍ、東西約750ｍのほぼ楕円形の範囲を有する遺跡である。遺跡内には泉大津市立病院、共同住宅、個人住宅が主に建設されており、水田部はあまり見られなく、開発の進んでいる地域である。現在までの発掘調査結果で、低湿地帯における弥生時代前期の集落遺跡と判明している。特に弥生土器第Ｉ様式の肩部に「段」を有する壺形土器が検出されており、近畿地方で最古に始まる弥生集落の一つと言えよう。

本年度はこの遺跡内での５箇所の調査成果を報告する。

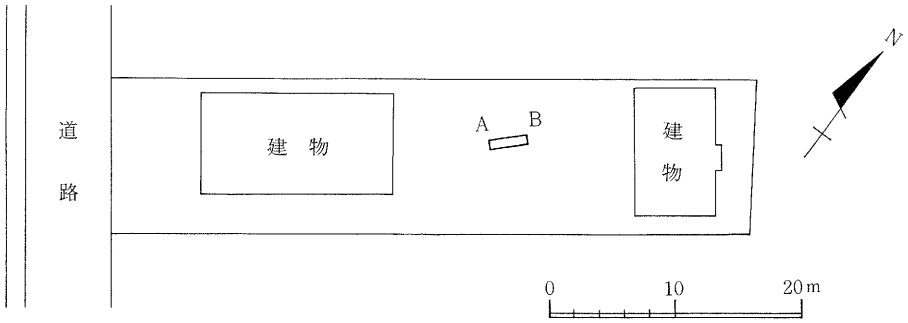


第29図　池浦遺跡調査地点図（１：5,000）

寿町66－1（第１地点　調査番号 9404）

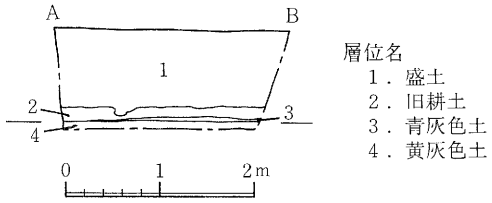
当該地は、池浦遺跡の西寄り部分で、616.62㎡の敷地に鉄骨３階建て診療所の増築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の中央部西寄りに幅0.7ｍ、長さ2.5ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.1ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第30図　池浦遺跡　第１地点　掘削位置図

調査坑の層序は上部から、盛土（１層・80cm）、旧耕土（２層・10cm）、青灰色土（３層・最大厚５cm）で、黄灰色土（４層・９cm以上）となる。いずれの層もほぼ水平に堆積していた。



第31図　第１地点　西壁断面図

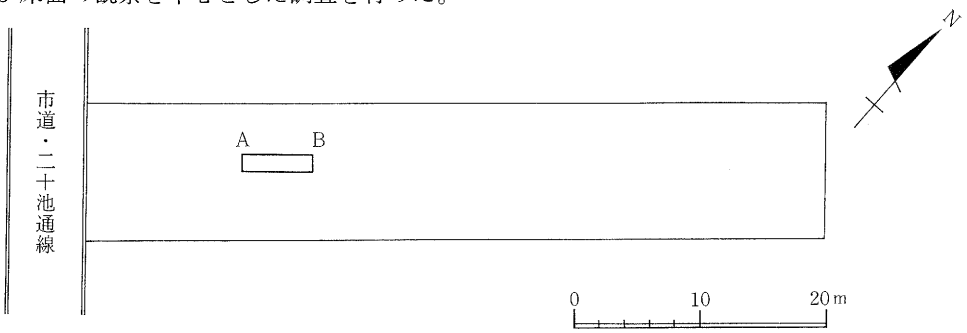
観察の結果、遺構・遺物等は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して調査は終了とした。

（調査日　平成６年２月３日）

寿町455－1（第２地点　調査番号 9408）

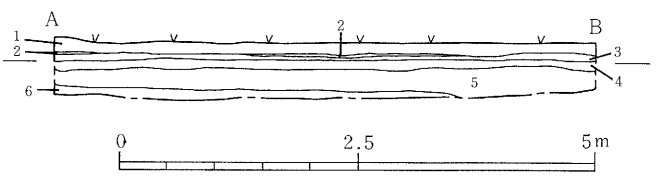
当該地は、池浦遺跡の北寄り部分で、623.70m²の敷地に鉄骨２階建て共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東寄り部分に、N45°E方向に幅1.4m、長さ5.7mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ60cmまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第32図　池浦遺跡　第２地点　掘削位置図

調査坑の層序は上部から、耕土（１層・10cm）の下に、灰白色土（２層）が薄く部分的に見られ、茶色土（３層・３～８cm）、灰黄色混砂土（４層・５～10cm）、灰黄色粘土（５層・14～30cm以上）と続き、灰黄色シルト（６層・12cm以上）となる。これらの層はほぼ水平に堆積していた。２層の灰白色土は、所謂床土と呼ばれるものである。３層の茶色土は遺物包含層で、須恵器（甕胴部）、布目平瓦片を検出したが、図示できる大きさではなかった。



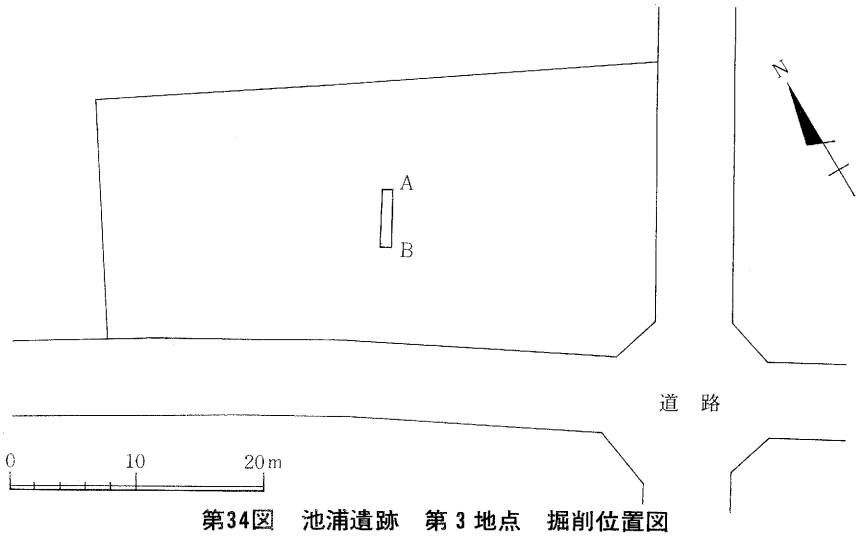
層位名
１．耕土
２．灰白色土(床土)
３．茶色土
４．灰黄色混砂土
５．灰黄色粘土
６．灰黄色シルト

第33図　池浦遺跡　第２地点　西壁断面図

観察の結果、遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して調査は終了とした。　（調査日　平成６年３月４日）

下条町120－1、－2（第３地点　調査番号 9411）

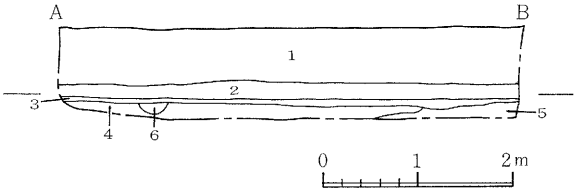
当該地は、池浦遺跡の西寄り部分で、899.02m²の敷地に鉄筋コンクリート３階建ての市立病院看護婦宿舎の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。



第34図　池浦遺跡　第３地点　掘削位置図

開発区域の東寄り部分に、N45°E方向に幅0.9m、長さ4.9mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.95mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・60cm）、旧耕土（2層・13～20cm）、茶灰色土（3層・3～10cm）となる。その下は調査坑の北東側で黄灰色砂質土（4層・18cm以上）が堆積していて、北西側へいくと急に薄くなり、変わって灰褐色砂礫（5層）が堆積していた。また、4層の黄灰色砂質土を切って、灰黄色砂質土（6層）が幅30cm、最大厚11cmで見られた。調査坑の下部は、砂質土層及び砂礫層となっていたので掘削はこれまでとした。これらの層の堆積は、水の流れを示すものと考えられ、旧地形は谷部若しくは流路の可能性がある。



層位名
1．盛土　　4．黄灰色砂質土
2．旧耕土　　5．灰褐色砂礫
3．茶灰色土　　6．灰黄色砂質土

第35図　第3地点　東壁断面図

観察の結果、遺構・遺物は認められず、隣接地の既往調査と同様であったので、写真撮影後、土層断面図を作成して調査は終了とした。　　（調査日　平成6年6月8日）

下条町123－1、124の各一部、125（第4地点　調査番号 9413）

当該地は、池浦遺跡内西寄りで、第3地点の北側に隣接する地点である。1,584.42m²の敷地に軽量鉄骨2階建て共同住宅の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

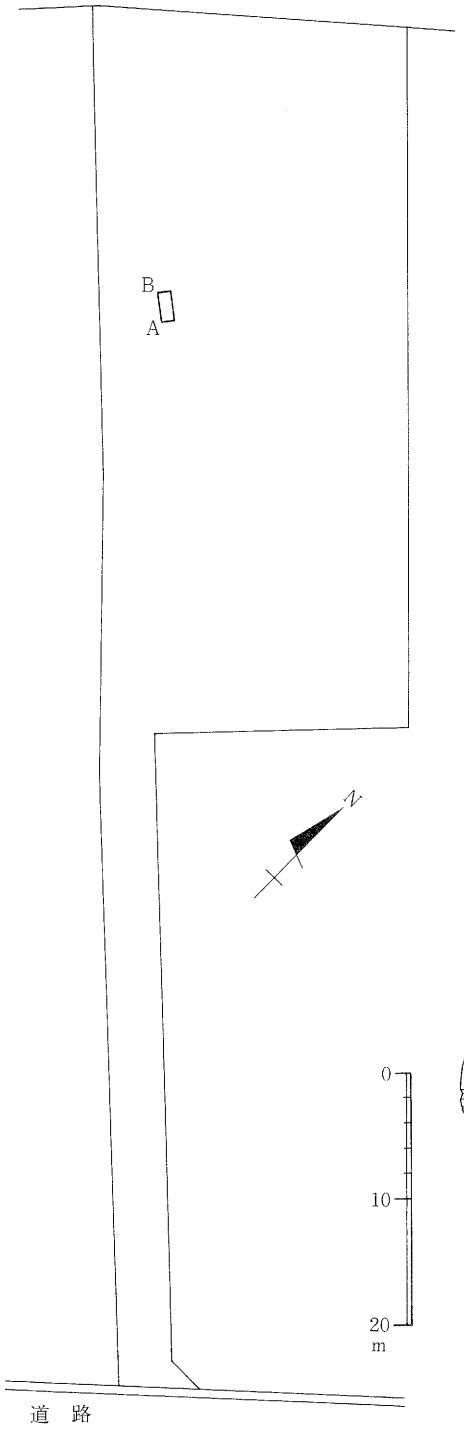
開発区域の西側部分に、幅1m、長さ2.3mの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1mまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、盛土（1層・95cm）、耕土（2層・10cm）、暗灰色砂質土（3層・5～15cm）、黄灰色砂質土（4層・8cm）、で茶灰色砂質土（5層・10cm以上）となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。1層の盛土は山土が10cm、コンク

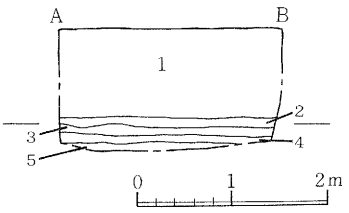
リート塊混入土が85cmとなっていた。3層の暗灰色砂質土は旧耕土である。観察の結果、遺構は認められなかったが、4層の黄灰色砂質土から弥生土器Ⅲ～Ⅳの鉢の口縁部片が1点出土した。

写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成6年7月19日）

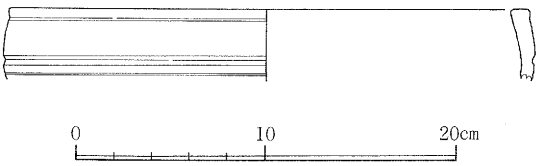


第36図　池浦遺跡　第4地点　掘削位置図



層位名
1．盛土
2．耕土
3．暗灰色砂質土（旧耕土）
4．黄灰色砂質土
5．茶灰色砂質土

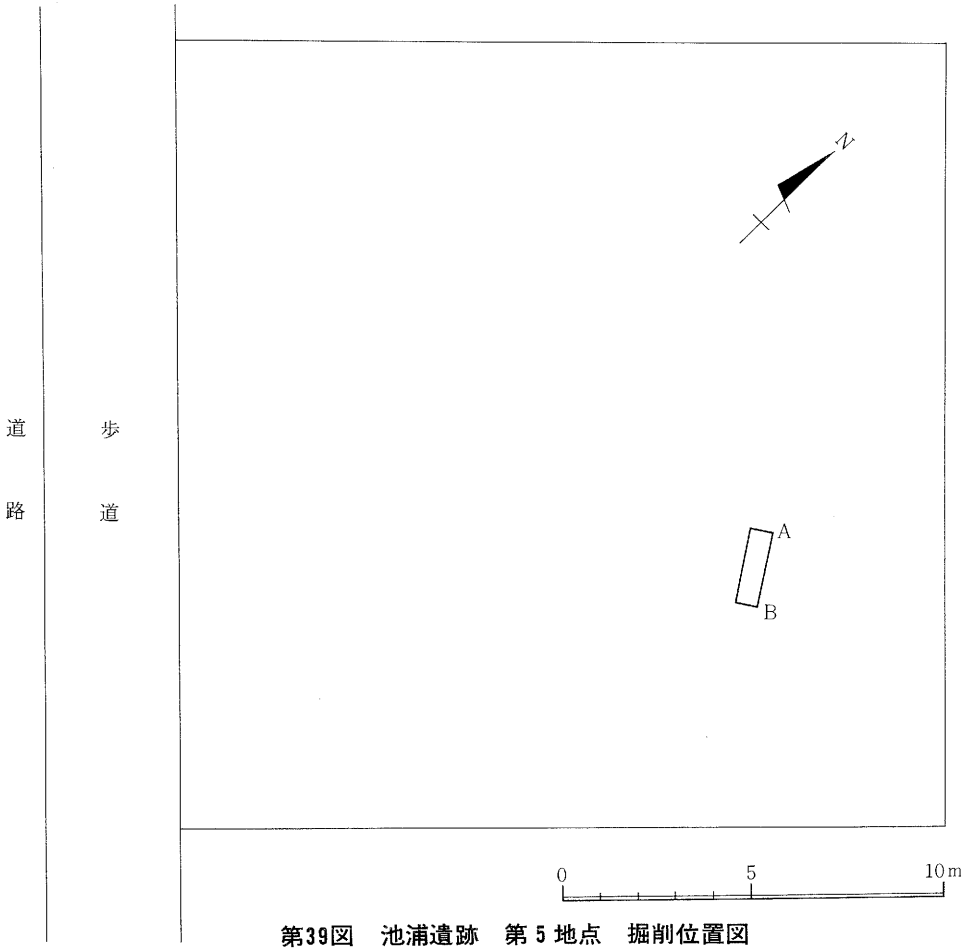
第37図　第4地点　南壁断面図



第38図　第4地点　出土遺物

寿町90－1、447－1、下条622－8の各一部（第５地点　調査番号 9414）

当該地は、池浦遺跡の北端で、422.10m²の敷地に鉄骨平屋建て店舗の建築が計画され、

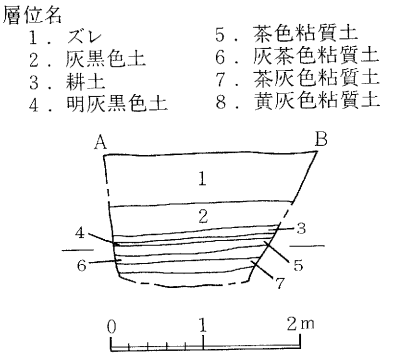


第39図　池浦遺跡　第５地点　掘削位置図

建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の東側に、幅１ｍ、長さ2.2ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ1.4ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。

調査坑の層序は上部から、ズレ（１層・50cm）、灰黒色土（２層・30cm）、耕土



第40図　第５地点　北壁断面図

（３層・５～10cm）、明灰黒色土（４層・５cm）、茶色粘質土（５層・７～10cm）、灰茶色粘質土（６層・５～10cm）、茶灰色粘質土（７層・14cm）で黄灰色粘質土（８層・15cm以上）となっている。これらの層は何れもほぼ水平に堆積していた。

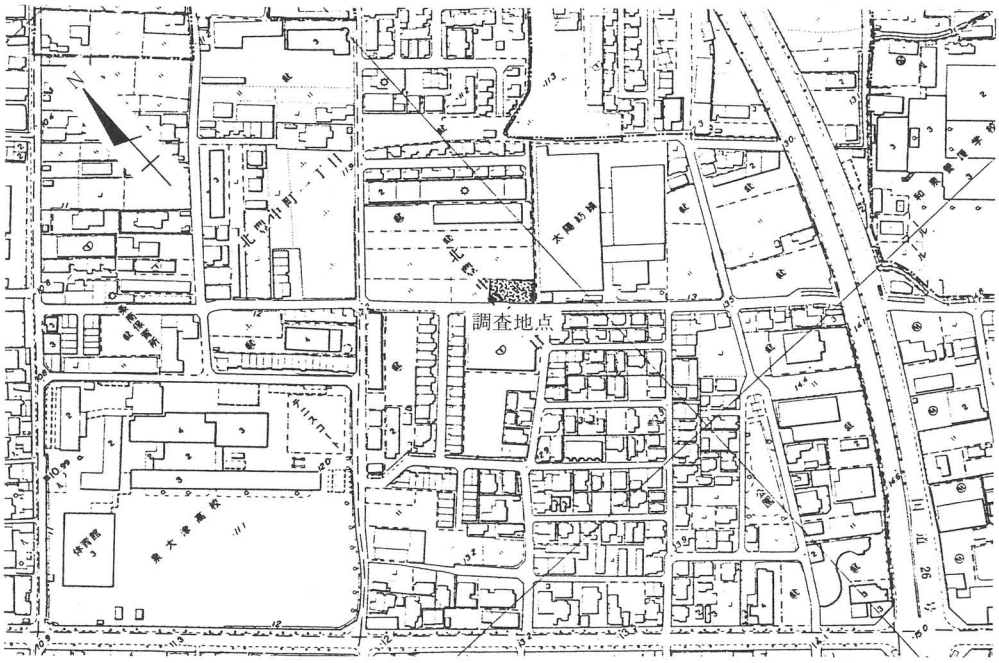
観察の結果、遺構・遺物等は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成６年８月２日）

七ノ坪遺跡

本遺跡は、泉大津市の東部に所在し、南北約300ｍ、東西約350ｍの範囲を有する遺跡で、豊中遺跡の北西部で接し、池上曽根遺跡の南部に位置する。府立泉大津高校や店舗、共同住宅、個人住宅が主に建築されており、水田部は減少しつつある。現在までの発掘調査結果で、古墳時代初期の竪穴住居や掘立柱建物、方形周溝墓や木棺直葬墓及び水田が発見されており、生活の場、生産の場、埋葬の場を備えた遺跡であることが判明している。

本年度はこの遺跡内１箇所で発掘調査を実施した。

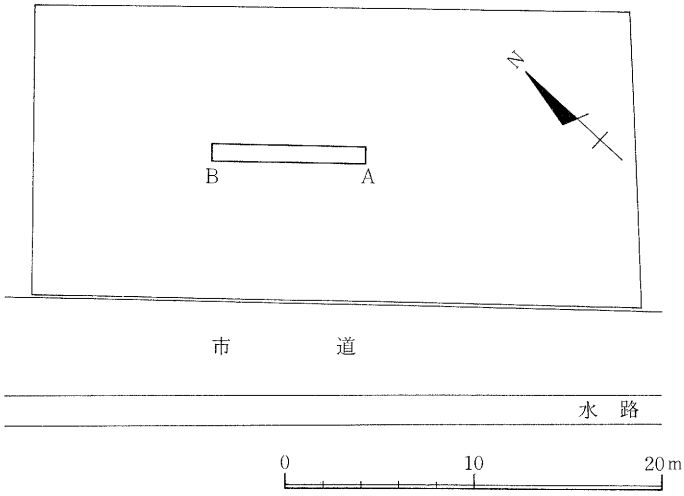


第41図　七ノ坪遺跡調査地点図（１：5,000）

北豊中町２丁目513－３の一部（調査番号 9417）

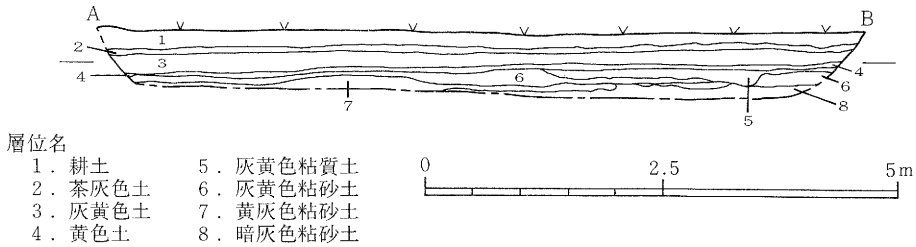
当該地は、七ノ坪遺跡の東端で、497.42㎡の敷地に鉄骨２階建て倉庫付き事務所の建築が計画され、建設工事に先立ち発掘調査を実施した。

開発区域の中央部に、幅0.9ｍ、長さ8.2ｍの規模の調査坑を設定し、注意深く重機で深さ0.7ｍまで掘削した。その後人力で壁面及び底面を削平し、土層断面及び床面の観察を中心とした調査を行った。



第42図　七ノ坪遺跡　調査地　掘削位置図

調査坑の層序は上部から、耕土（1層・15～25cm）、茶灰色土（2層・5～8cm）、灰黄色土（3層・10～20cm）、黄色土（4層・5cm）、となり、その下層は西側で灰黄色粘質土（5層・4～20cm）が見られた。東側ではこの5層を切って灰黄色粘砂土（6層）が堆積し、東端では5層が再び見られた。5層の灰黄色粘質土の下は、西側で黄灰色粘砂土（7層・15cm以上）が見られ、東の方向へ行くにしたがい薄くなって途切れがちになり、その下で暗灰色粘砂土（8層・15cm以上）が堆積していた。2層の茶灰色土は所謂床土と呼ばれるものである。



第43図　七ノ坪遺跡　調査地　南壁断面図

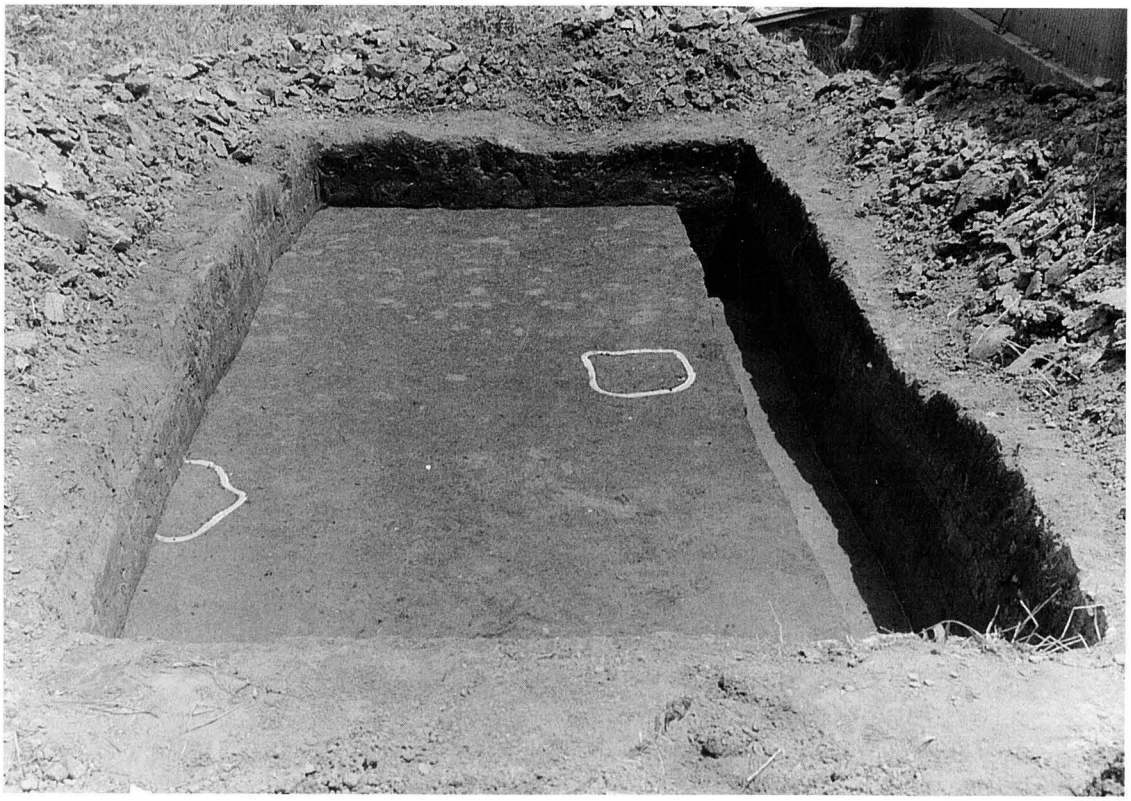
観察の結果、3層の灰黄色土と5層の灰黄色粘質土には、土師器片が包含していた。遺構は認められなかったので、写真撮影後、土層断面図を作成して、調査は終了とした。

（調査日　平成6年12月7日）

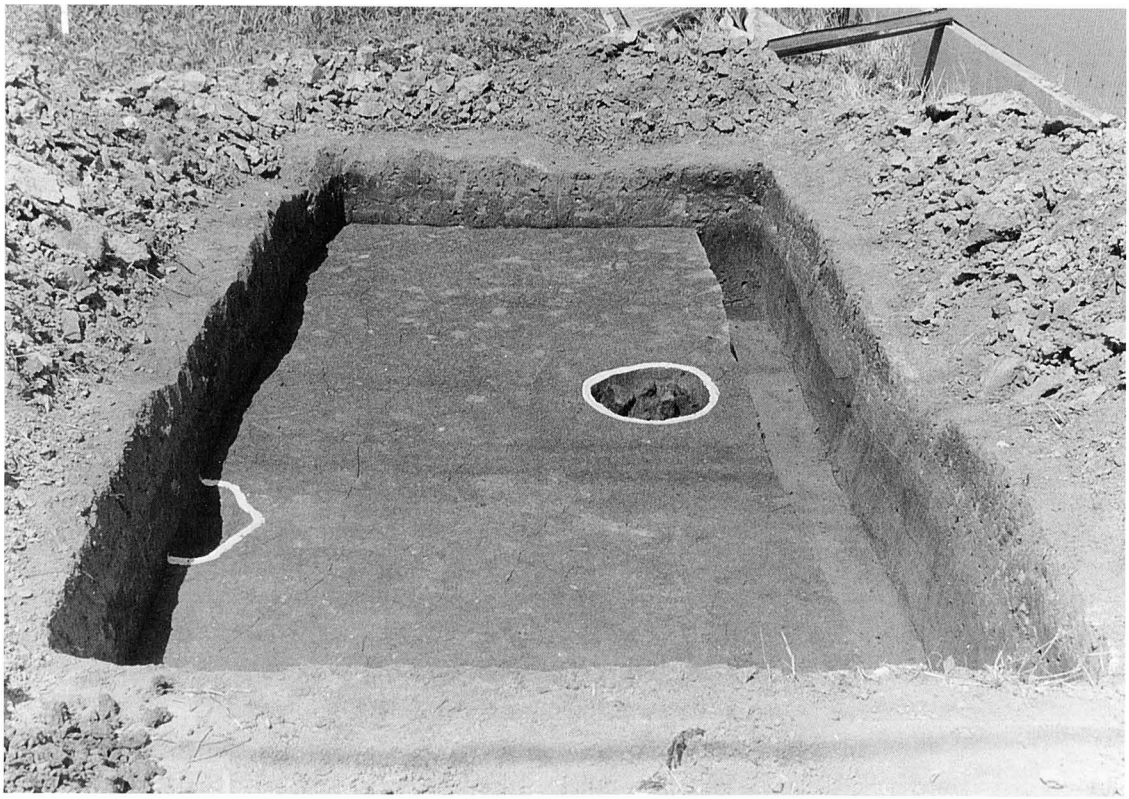
図　　版

池上曽根遺跡調査坑

豊中遺跡第１地点調査坑



豊中遺跡第２地点（遺構掘削前）



豊中遺跡第２地点（遺構掘削後）

豊中遺跡第２地点ピット１

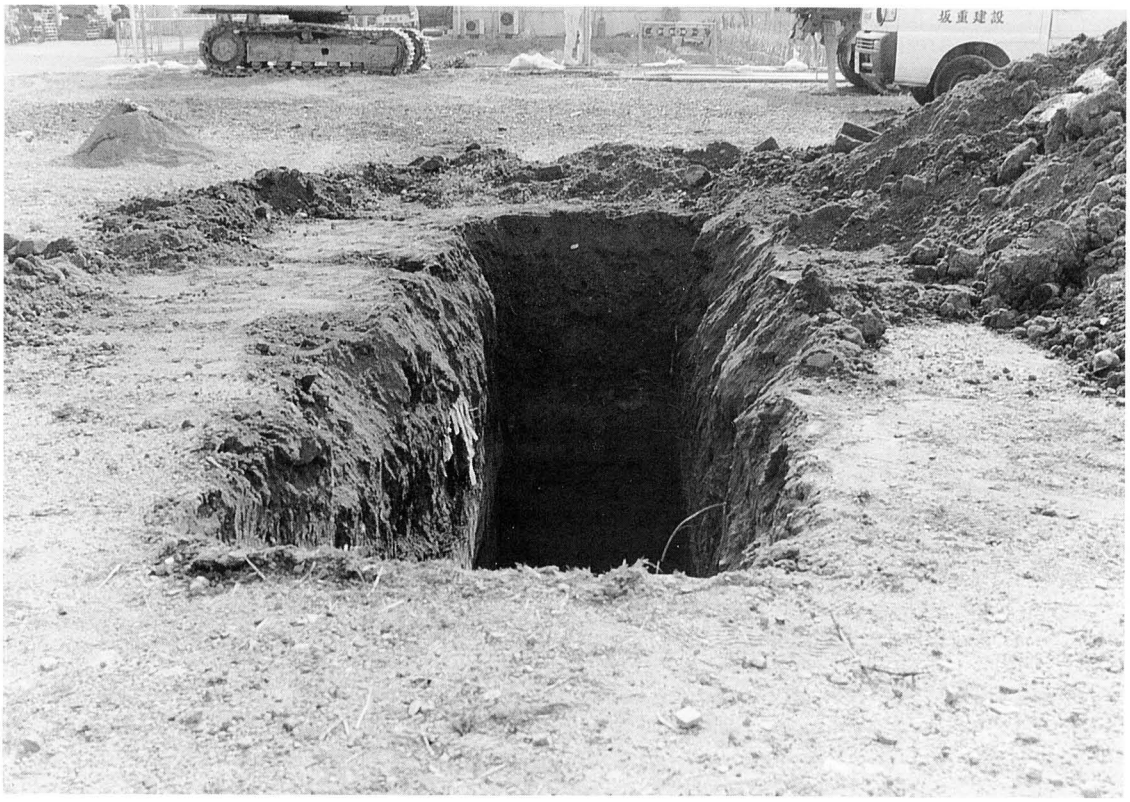
豊中遺跡第３地点調査坑

豊中遺跡第４地点調査坑

虫取遺跡第１地点調査坑

虫取遺跡第 2 地点調査坑

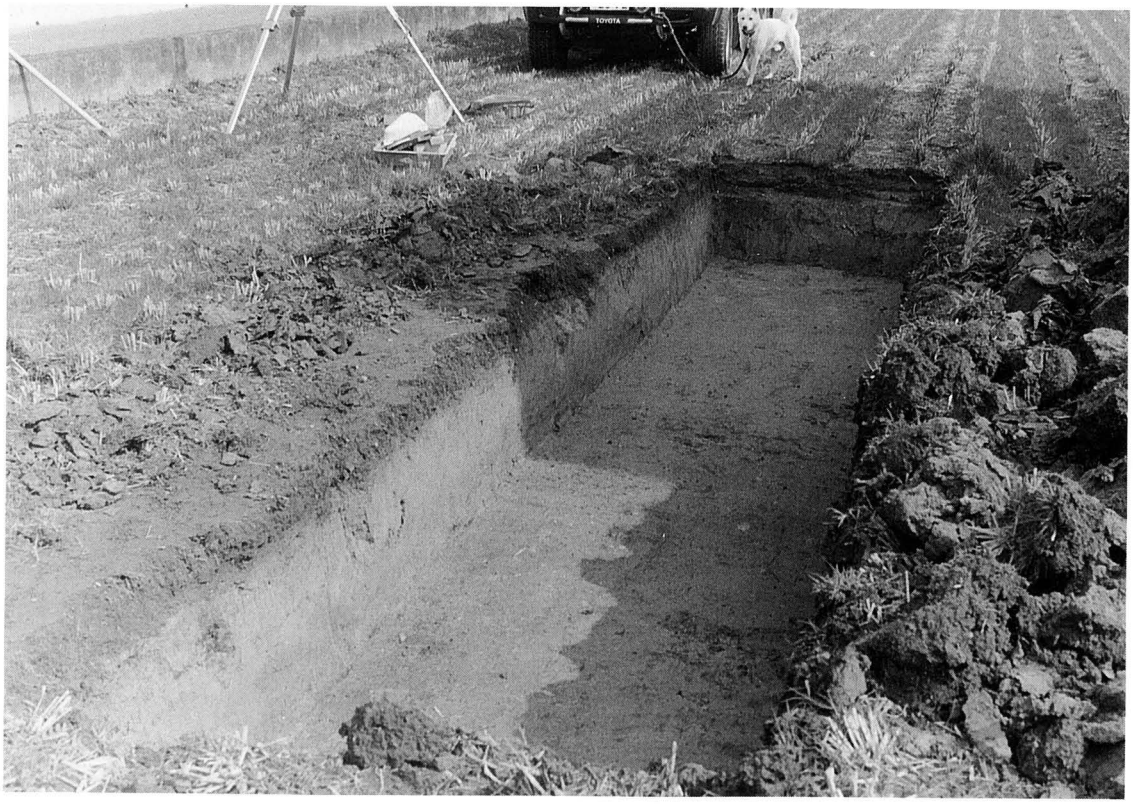
虫取遺跡第 3 地点調査坑



板原遺跡第１地点調査坑

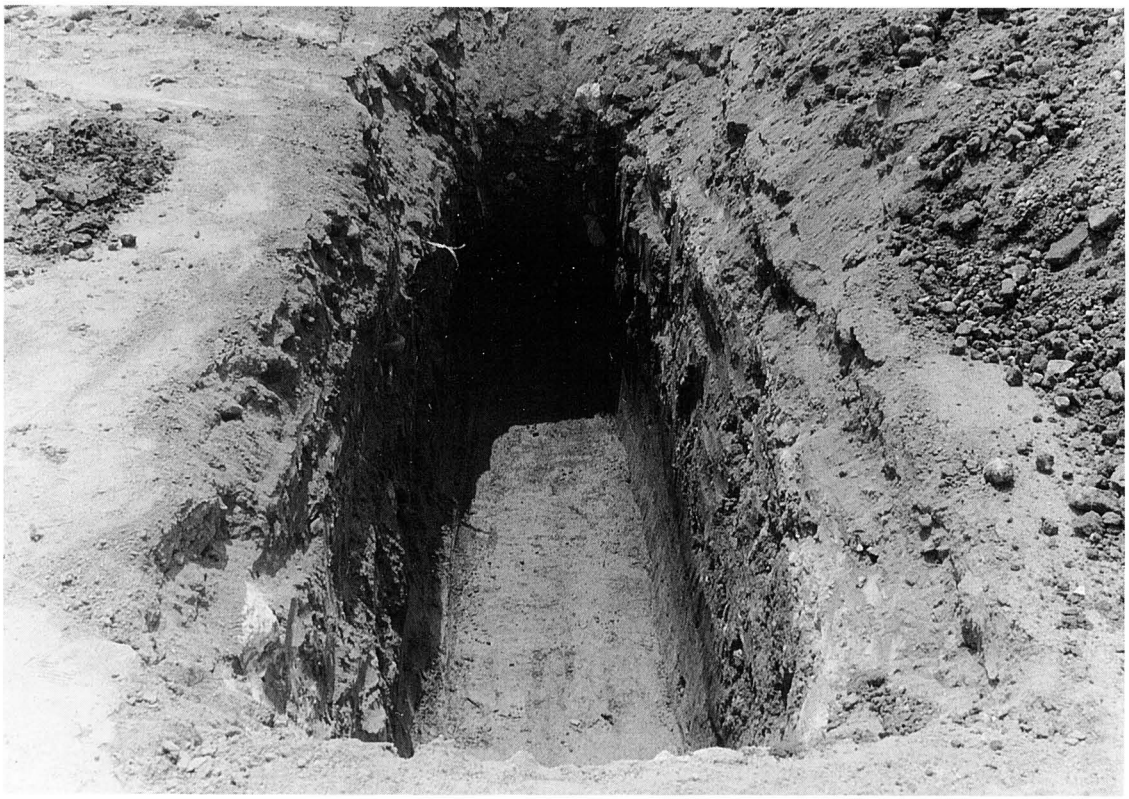
板原遺跡第２地点調査坑

池浦遺跡第１地点調査坑

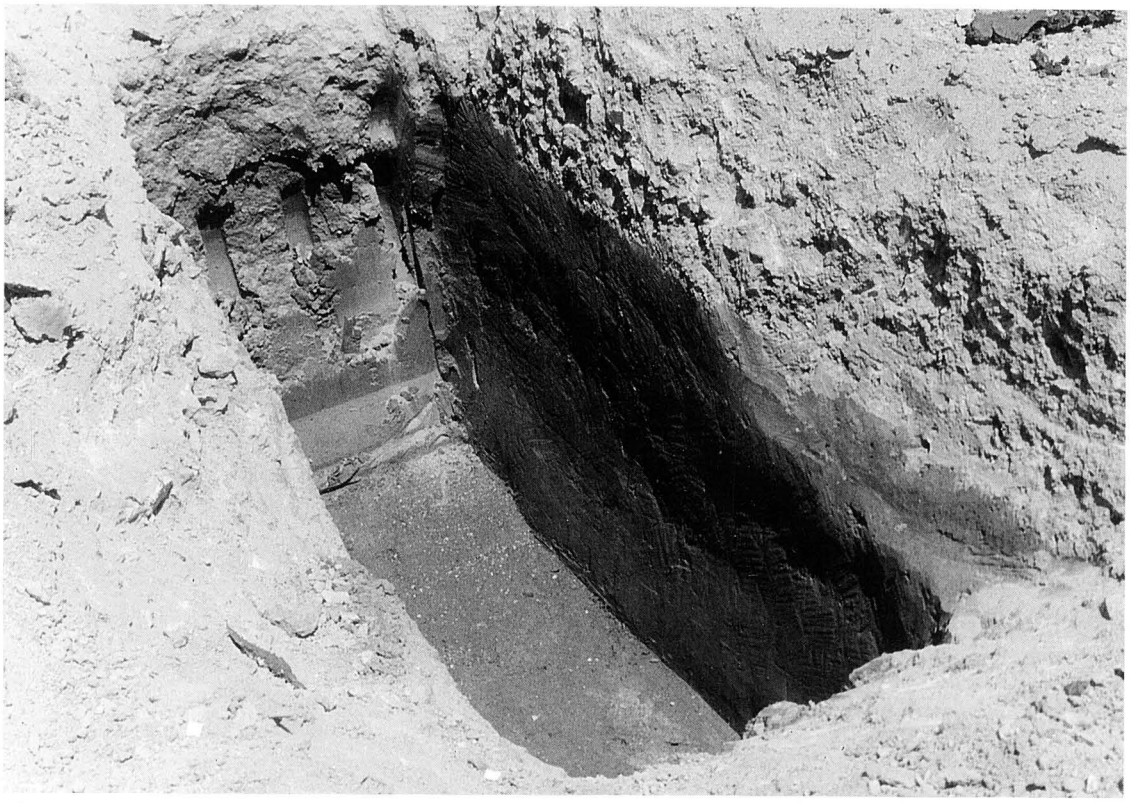


池浦遺跡第２地点調査坑

池浦遺跡第 3 地点調査坑



池浦遺跡第 4 地点調査坑



池浦遺跡第５地点調査坑

七ノ坪遺跡調査坑

報告書抄録 その1

ふりがな	いずみおおつしまいぞうぶんかざいはっくつちょうさがいほう
書名	泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報
副書名	
巻次	13
シリーズ名	泉大津市文化財調査報告
シリーズ番号	25
編著者名	坂口昌男
編集機関	泉大津市教育委員会
所在地	〒595 大阪府泉大津市東雲町9番12号 TEL 0725−33−1131
発行年月日	西暦 1995年3月22日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
池上曽根	大阪府泉大津市 曽根町1丁目 436	272060		52度 27分 55秒	165度 58分 00秒	19940224	4.95	鉄骨3階建て共同住宅建設に伴う事前調査
豊中	大阪府泉大津市 北豊中町3丁目 976−18	272060		52度 22分 20秒	167度 12分 00秒	19940302	4.77	鉄骨3階建て共同住宅建設に伴う事前調査
	豊中町2丁目 953−13			52度 42分 15秒	167度 08分 30秒	19940712 〜 19940714	8.00	鉄骨2階建て個人住宅建設に伴う事前調査
	豊中町2丁目 459−1 の一部			52度 42分 30秒	167度 02分 10秒	19940830	6.84	鉄骨平屋建て店舗建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池上遺跡	集落	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	土師器・須恵器・磁器・摺鉢の各小破片	層序は耕土、茶色土、北側で茶色小礫、茶色粗礫、南側で茶色砂がレンズ状に、その下は、茶色粘質土 茶色土は遺物包含層
豊中	集落 社寺跡	縄文 古墳 平安 中世	遺構は検出されなかった	土師器・瓦器 破片	層序は盛土、灰色砂、黄灰色シルト、灰黄色シルト、茶灰色シルト、茶色シルトがほぼ水平に堆積 灰黄色シルト、灰色砂、茶灰色シルトは遺物包含層
			ピット2個検出	弥生土器・須恵器・土師器・磁器の各破片	層序は耕土、茶灰色土、灰茶色土、灰色砂質土、灰黄色砂質土、灰茶色粘質土、茶黄色粘質土となる。 茶黄色粘質土は遺構面
			遺構は検出されなかった	瓦片	層序は耕土、灰茶色砂質土、茶灰色砂質土、黄灰色砂質土、混砂礫となる。 茶灰色砂質土、黄灰色砂質土は遺物包含層

報告書抄録 その2

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 m²	調査原因
豊中	大阪府泉大津市 北豊中町2丁目 989の一部	272060		52度 38分 20秒	167度 00分 05秒	19950127	3.41	鉄骨3階建て住宅・倉庫建設に伴う事前調査
虫取	大阪府泉大津市 板原291,292,293,294,295-1,298,299-1	272060		53度 57分 15秒	167度 24分 00秒	19940426	6.93	鉄骨3階建て倉庫・作業場建設に伴う事前調査
	我孫子 291−7			53度 28分 00秒	167度 15分 10秒	19940706	3.2	軽量鉄骨2階建て個人住宅建設に伴う事前調査
	虫取35−1, −4 の各一部			53度 50分 50秒	167度 11分 00秒	19941108	1.62	軽量鉄骨2階建て店舗付作業場建設に伴う事前調査
板原	大阪府泉大津市 板原1311	272060		53度 22分 15秒	168度 20分 20秒	19940209	3.96	鉄骨平屋建て倉庫建設に伴う事前調査
	板原1304 の一部			53度 20分 30秒	168度 22分 20秒	19940519	2.48	2階建て個人住宅建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
豊中	集落 社寺跡	縄文 古墳 平安 中世	井戸（？）輪郭	瓦片	層序は盛土、耕土、灰白色砂質土、灰色砂質土、黄灰色土が水平に堆積する。 黄灰色土面が遺構面
虫取	集落	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は盛土、耕土、黄灰色粘質土、黄灰色砂質土がほぼ水平に堆積する。
			遺構は検出されなかった	布目丸瓦・瓦器・青磁皿の各小破片	層序は盛土、耕土、灰色粘質土、黄灰色粘質土がほぼ水平に堆積 灰色粘質土は遺物包含層 遺物は「弘法寺」関係のものか。
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は盛土、耕土、灰黄色粘質土、灰茶色粘質土、褐灰色粘質土、暗褐灰色粘質土、黄灰色粘質土となり、灰茶色粘質土以下は漸移的に土色が変化する。
板原	集落	縄文 古墳 中世 近世	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は盛土、耕土、黄灰色粘質土、黄茶色土となる。
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は砕石、盛土、灰黒色土、灰黄色粘質土、礫混じり土である。

報告書抄録 その3

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
いけうら 池浦	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 ことぶきちょう 寿町66－1	272060		53度 10分 40秒	166度 21分 30秒	19940203	1.75	鉄骨3階建て診療所建設に伴う事前調査
	ことぶきちょう 寿町455－1			53度 11分 40秒	166度 20分 40秒	19940304	7.98	鉄骨2階建て共同住宅建設に伴う事前調査
	げじょうちょう 下条町120－1 －2			53度 28分 10秒	166度 24分 20秒	19940608	4.41	鉄筋コンクリート3階建て看護婦宿舎建設に伴う事前調査
	げじょうちょう 下条町123－1 124 の各一部 125			53度 31分 15秒	166度 21分 20秒	19940719	2.3	軽量鉄骨2階建て共同住宅建設に伴う事前調査
	ことぶきちょう 寿町90-1,447-1 の各一部 げじょうちょう 下条町622－8			53度 23分 45秒	166度 19分 10秒	19940802	2.2	鉄骨平屋建て店舗建設に伴う事前調査
ひらのつぼ 七ノ坪	おおさかふいずみおおつし 大阪府泉大津市 きたとよなかちょう 北豊中町2丁目 513－3の一部	272060		52度 32分 20秒	166度 50分 40秒	19941207	7.38	鉄骨2階建て倉庫付事務所建設に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
池浦	集落	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は盛土、旧耕土、青灰色土、黄灰色土がほぼ水平に堆積する。
			遺構は検出されなかった	須恵器、布目平瓦片	層序は耕土、灰白色土、茶色土、灰黄色混砂土、灰黄色粘土、灰黄色シルトがほぼ水平に堆積する。 茶色土は遺物包含層
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序は盛土、旧耕土、茶灰色土、黄灰色砂質土、灰褐色砂礫、灰黄色砂質土が堆積
			遺構は検出されなかった	弥生土器　鉢口縁部	層序は盛土、耕土、暗灰色砂質土、黄灰色砂質土、茶灰色砂質土がほぼ水平に堆積. 黄灰色砂質土は遺物包含層
			遺構は検出されなかった	遺物は検出されなかった	層序はズレ、灰黒色土、耕土、明灰黒色土、茶色粘質土、灰茶色粘質土、茶灰色粘質土、黄灰色粘質土がほぼ水平に堆積
七ノ坪	集落 その他 の墓	弥生 古墳	遺構は検出されなかった	土師器片	層序は耕土、茶灰色土、灰黄色土、黄色土、灰黄色粘質土、灰黄色粘砂土、黄灰色粘砂土、暗灰色粘砂土が堆積する。

泉大津市文化財調査報告25

泉大津市埋蔵文化財発掘調査概報13

１９９５年３月

発　行　泉大津市教育委員会
編　集　社　会　教　育　課
　　泉大津市東雲町９番12号

印　刷　和泉出版印刷株式会社
　　和泉市池上町460－33